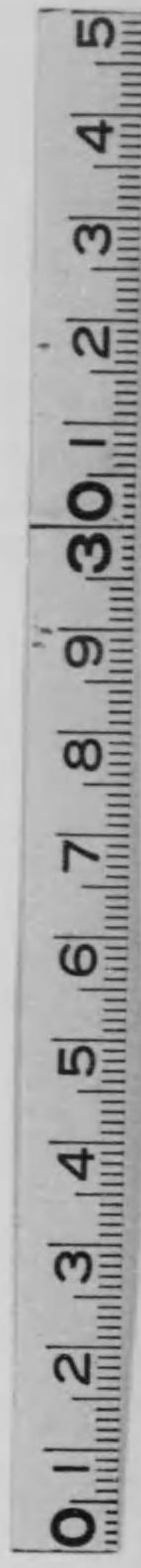




始



梳棉機標準勸作

11
195

梳棉機標準動作

+

+

+

+

11-425



梳棉機標準勸作

大正
10. 2. 26
内交

(目1)

梳棉機標準動作目次

第一章 総論	1
(1) 条件	1
(2) 仕事分担	1
第二章 \angle ラッポ \supset = 関スル事	2
(1) \angle ラッポ \supset 運搬	2
(FIG 1) 手提法及頭上法	4
(2) \angle ラッポ \supset 段取	5
(3) \angle ラッポ \supset 替	5
(FIG 2) \angle ラッポ \supset 掛金物	6
第三章 \angle ケンス \supset = 関スル事	8
(1) \angle ケンス \supset 運搬ノ方法	8
(2) \angle ケンス \supset 替	9
(FIG 3) \angle ケンス \supset 位置	9
(FIG 4) \angle ケンス \supset 替ハ方	11

(目2)

第四章 「スライバ」=割スル事	12
オ一節 「スライバ」継キ	12
(1) 切断セシ場合	12
(2) 並掃除口切リ場合	13
第五章 並掃除	14
オ一節 並掃除ノ概要	14
(1) 定負及組分ケ	14
(2) 回数	14
(3) 「ダストレムバー」	14
(4) 並掃除ケンス「マーク」	14
(FIG 5) 並掃除「ケンス」マーク	15
(5) 並掃除ノ順序	16
(6) 各列=対スル割当	16
(7) 夜警時計	18
(FIG 6) 四回並掃除時間表	19

(目3)

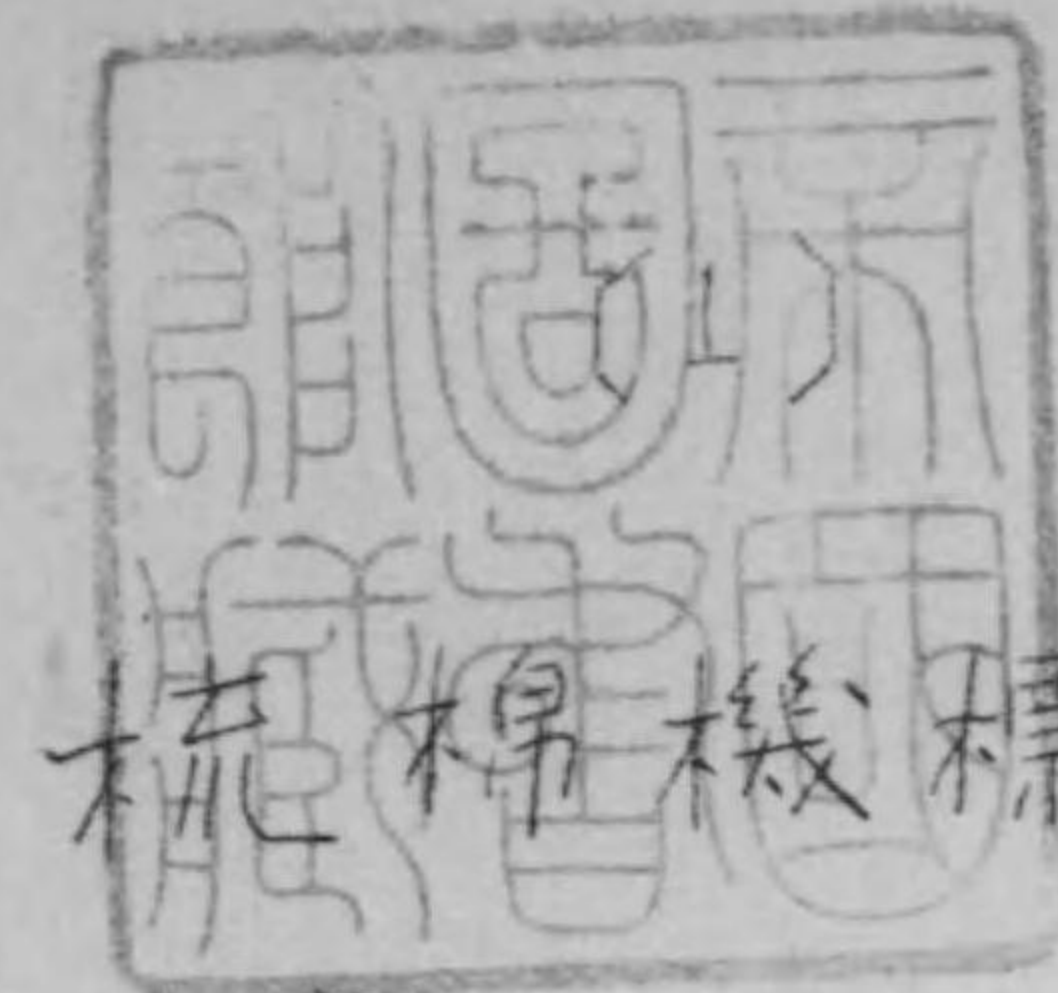
(FIG 7) 五回並掃除時間表	20
オ二節 口切リ口付ケ	21
(1) 担任者	21
(2) 方法	21
(3) 仕事ノ分ケ	23
オ三節 並掃除后ノ屑掃取リ	23
(1) 「ダートレ」屑及金盞掃	23
(2) 集メ方	23
オ四節 並掃除準備動作	24
(1) 並掃除ノ方向	24
(2) 「ダストレムバー」取扱	24
(FIG 8) 口切リ口付ケ経路図	25
(FIG 9) 「ダストレムバー」	27
(3) 「リレダ」掃除動作	29
(4) 「トッファ」掃除動作	29

{目4}

(表1) シリンダー並掃除動作	30
(表2) ドンファン並掃除動作	33
第五節 並掃除方心得	35
第六節 並掃除方並=並掃除 以外ノ仕事	36
第六章 掃除	38
(1) 掃除ノ周期	38
(2) 中途並掃除及ラップ替 起シノ所置	38
(3) 屑棉箱ノ位置	38
(4) 道具ノ置場	38
(5) 掃除ノ道筋	39
(6) 掃除個所回数及道具	39
(7) 台拵ニ対スル注意	39
(表3) 掃除個所回数道具	45

{5}

(表4) 台拵工掃除動作	48
(表5) 掃除道具図解	50
(FIG10) 掃除動作道筋	55
第七章 注油	57
(1) 注油担任者	57
(2) 注油個所回数滴数	57
(3) 注油方法	58
(4) 注油進行方向	58
(5) 注油心得	58
(FIG11) 第一回注油順序	63
(FIG12) 第二回注油順序	64
(FIG13) 一週注油順序	65
(FIG14) 並掃除注油順序	66
(FIG15) フライコムボックス道具	67



標準機標働作

第壹章 總論

(1) 條件

本働作ハ主トシテ「プラットフォーム」機ニヨリ制定セルモノニシテ機台ニハ次ノ装置ヲ有スルモノトス

(1) 「フィドルバック」(ラップ掛)ハ豫備ラップヲ置キ得ルモノトス

(2) 「ストリップングドア」ハ「アーム」及「ブラケット」ヲ有スルモノナルコト

(2) 仕事ノ分担

仕事ノ分担ヲ次ノ如ク定ム

(1) 注油方

(2) 「ラップ」運搬方

(2)

- (3) ケンス⁷運搬方
- (4) 並掃除方
- (5) 台持工

第貳章 ヲラップ⁷ = 関スル事

{1} ヲラップ⁷ 運搬

(1) 運搬担任者

(イ) 専門工ヲ置ク

(ロ) 打棉室ヨリ梳棉室ニ至ル

(2) 運搬装置

(イ) 通路、広狭其他、事情 =

ヨリ一定スル能ハサルモ

(ロ) 許ス限リ、オーバーハット⁷キ

ヤリヤ⁷ヲ使用スルコト

(3) 運搬方法

(3)

(1) 近距離、運搬

(FIG 1 A) 図参照

(a) 手提法 = ヲルコト

(b) ヲラップロッド⁷ヲ逆手ニ握ル事

(c) 巻終リヲ上ニスル事

(d) 取扱ヲ丁寧ニスル事

(ロ) 遠距離、運搬

(FIG 1 B) 図参照

(a) 頭上法 = ヲルコト

(b) ヲラップロッド⁷ヲ順手ニ握ル事

(c) 巻終リヲ上ニスルコト

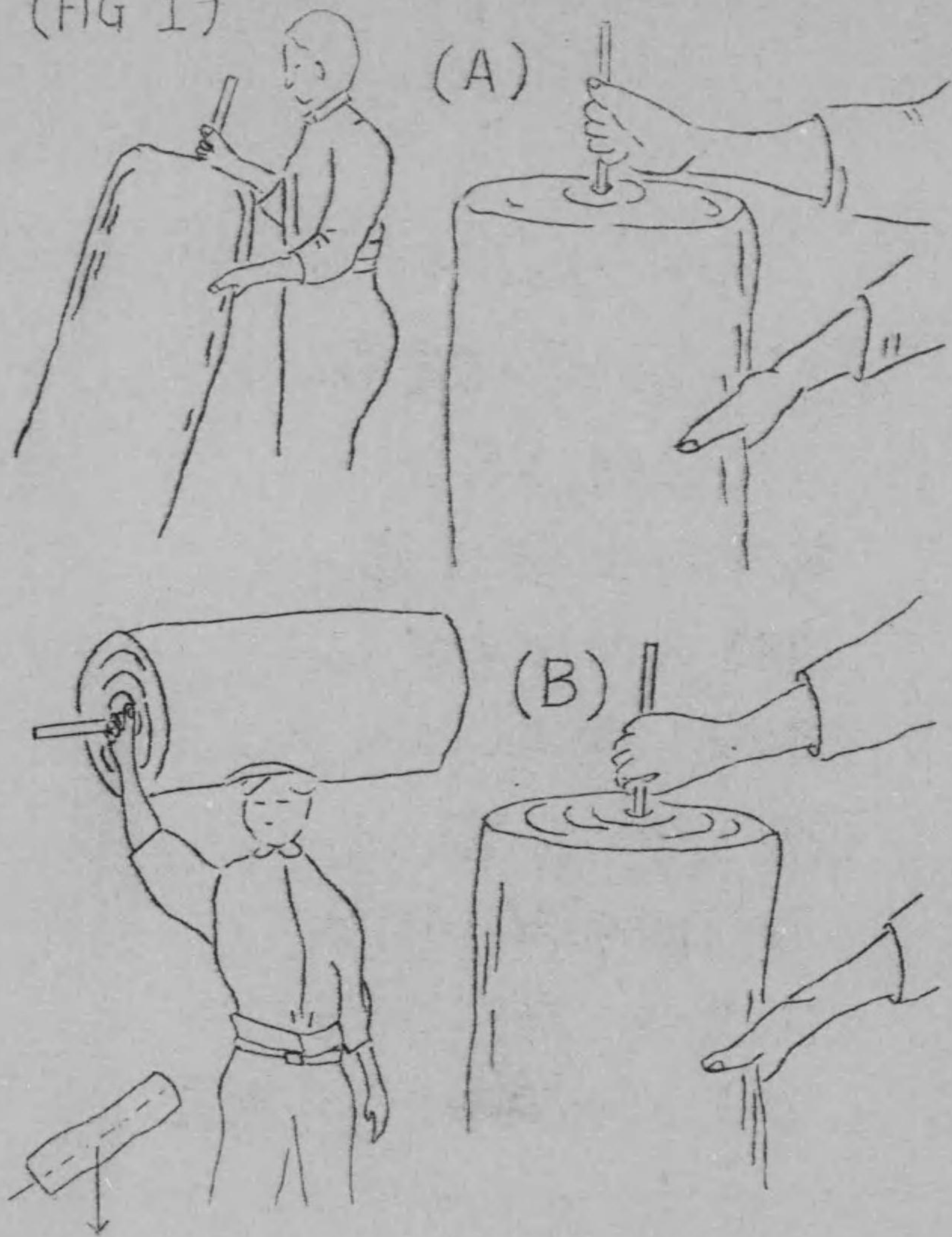
(d) 着帽セザルコト

(e) ヲラップ⁷、乱レザル様調

子ヲトリ歩行スルコト

(4)

(FIG 1)



(5)

(4) 運搬、時期

(イ) 台付ラップが五分以下 = +リタルトキ

(ロ) フイドルバック、上 = 置くコト

(2) ラップ、段取

(1) 2列、場合

前後列互 = 五分違トス

(2) 3列、場合

3段 = 按配スベシ

(3) ラップ替

(1) ラップ替、担任

台持工 = 担任セシム

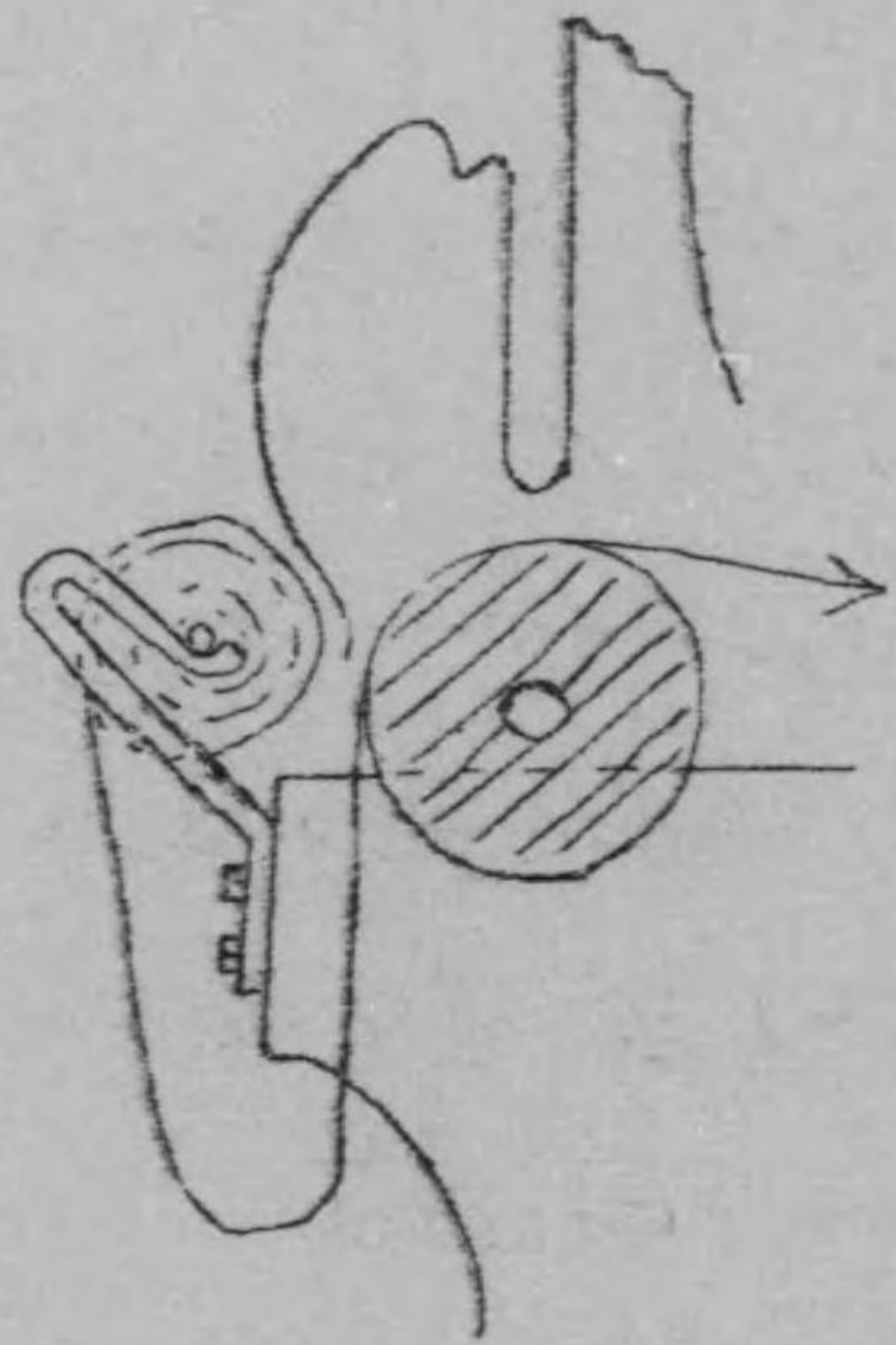
(2) ラップ巻キ終リ、所置

ラップが小サク + リタルはハ フイドルバックヨリ外レテ中途ヲ幾分重ラシ

(6)

テ FIG 2、如キ金物=掛ク、而シ
テ之、動作ヲ半数台全部=行フ

(FIG 2)



(7)

(3) Lラップ^o 多迷ギ方

(イ) Lラップ^o が短クナリテ Lラップロー
ラー^o ヲ高レントスルハ 豫備 Lラップ^o ヲ
右手=テ Lラップロッド^o、今ノナキ方ヲ先
キ=下ロス

(ロ) 今ノ方ヲ左手=テ下ス

(ハ) Lラップ^o、巻キ終リテ下=廻シ
Lラップローラー^o、上=下ス

(ニ) 多迷目ハ能ク圧へ置ク

(ホ) 多迷目ハ塞ネ過ギザル様又不
正ノ部分ハ訂正ス

(4) Lラップロッド^oノ所置

(イ) 一時前記ノ金物=置ク

(ロ) Lラップ^o 運搬ノ取リ=持来ル

(5) Lラップ^o 見廻リ

(8)

(イ) レッポ¹ハ 運転中 粘着又ハ 切断
等故障或ハ 雜物ヲ 混スルヲキカ
常ニ 注意スベシ

(ロ) レッライバー¹ニ 影響スルハ 直チ
ニ之レヲ 修正スベシ

第参章 レッス¹ニ関スル事

(1) レッス¹運搬ノ方法

(1) 担任者

専門工ヲ 遣キ、練糸機ヨリノ 空罐
及 梳棉機ヨリノ 満罐ヲ 運搬セシ
ム

(2) 方法

左右ノ 手ニ 一本宛 持テ 床面ヲ 輕
ク引キテ 運搬ス

(9)

(2) レッス¹替

(1) 摘要

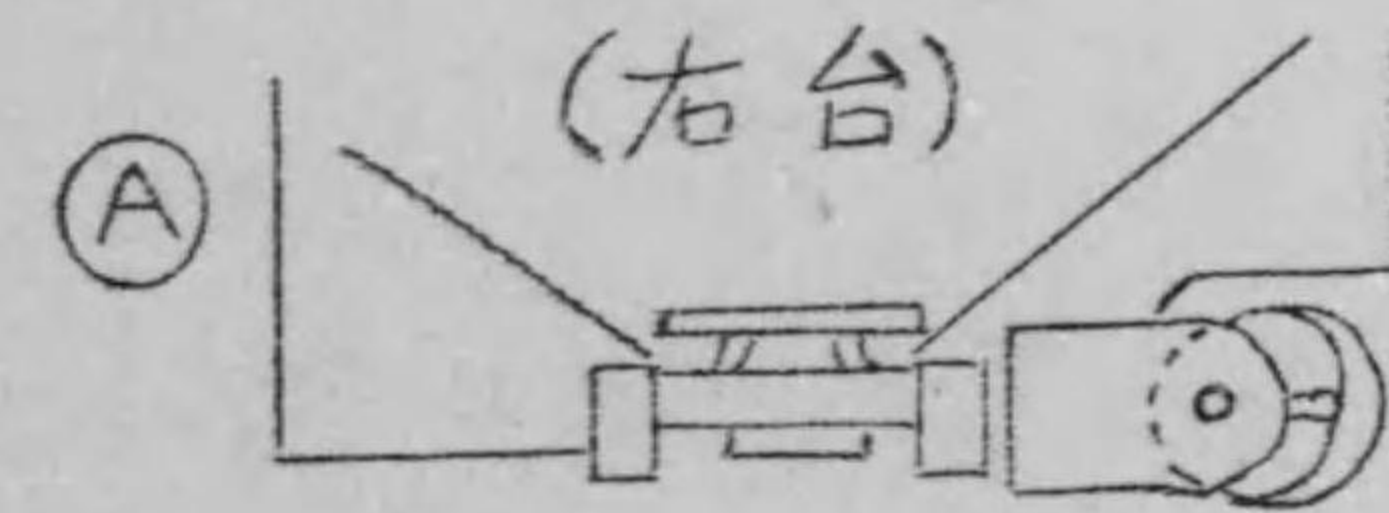
(イ) 練糸ノ 空罐ヲ 梳棉ノ レッ
ス¹ガ 満罐ニ 近ヅキタルキ FIG 3

(A)ノ 位置ニ 全台ニ 直リ 配置シ

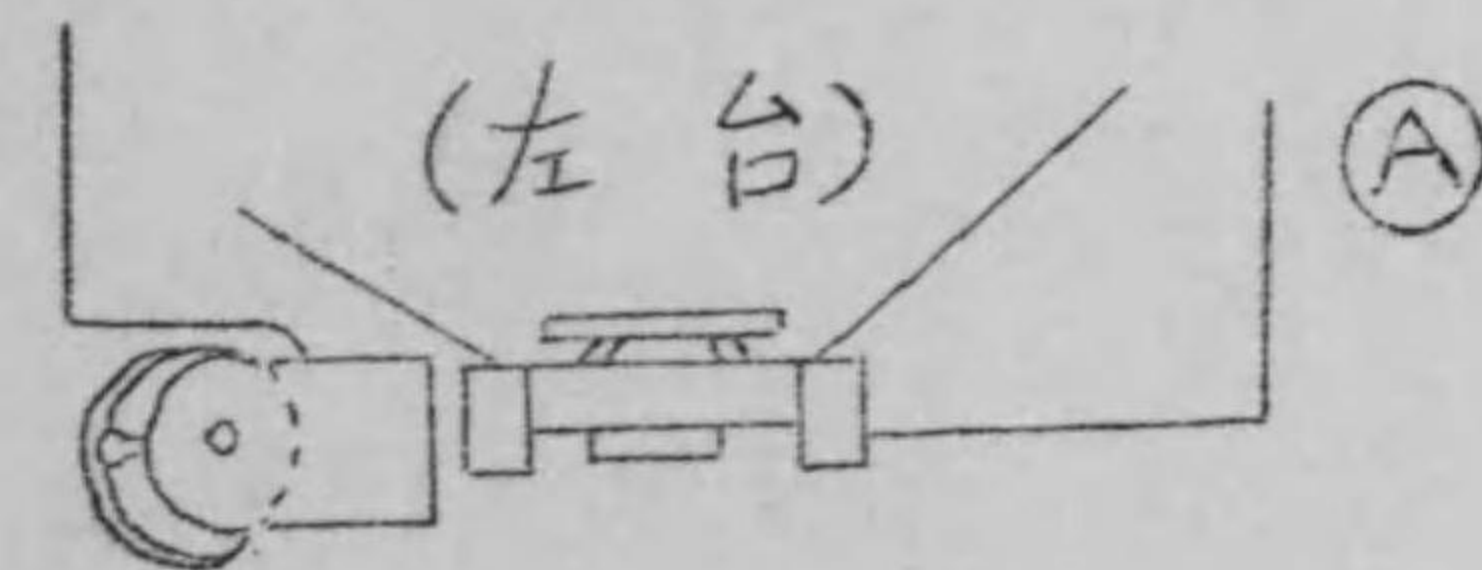
(ロ) 運転シツ、レッス¹替ヲ ナス

(ハ) 然ル後 満罐ヲ 練糸ニ 送

ルベシ



(FIG 3)



(10)

(2) 満罐報知装置

(イ) 時=ヨルカ

(ロ) 特別ノ装置ヲ造ル事

(ハ) ケンス替ノ方向及速度ヲ
毎度一定スル事

(3) ケンス替方法

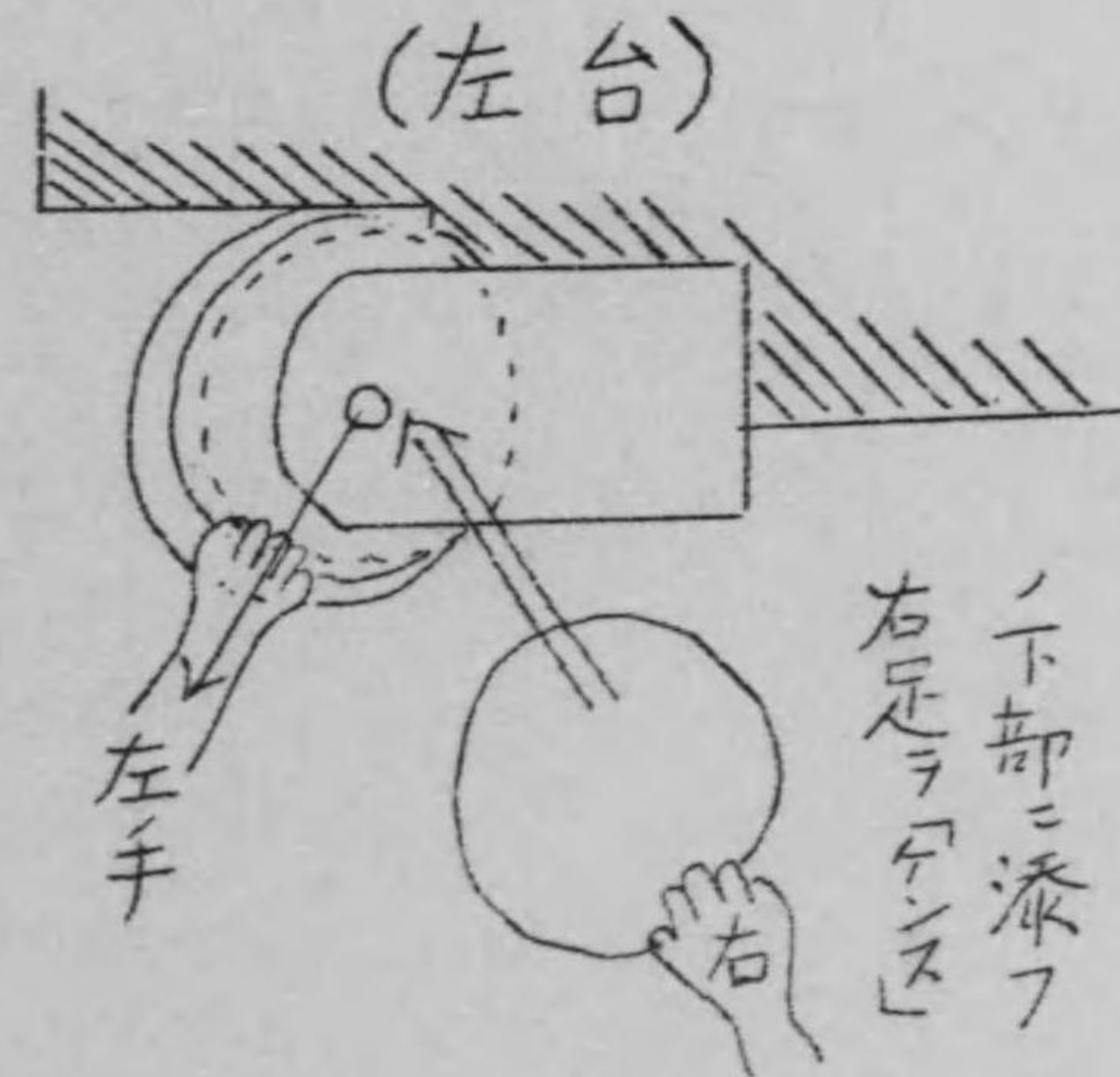
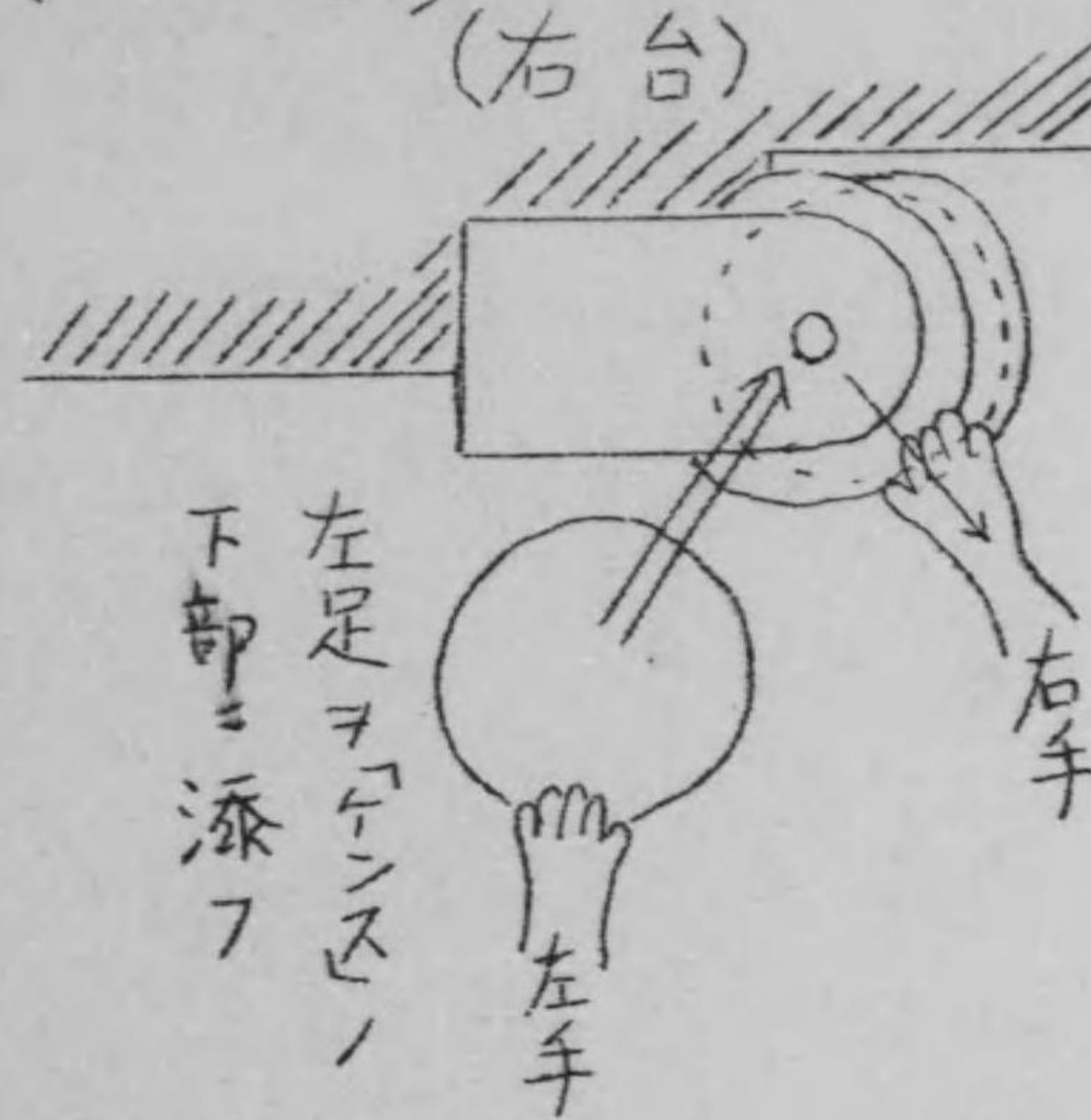
(FIG 4 参照)

(1) 右台ハ右手ニテ満罐ヲ抜
キ取リ左手ニテ空罐ヲ持チ左足ヲ
ケンスノ下部ニ添ヘテ入レル

(ロ) 左台ハ左手ニテ満罐ヲ抜
キ取リ右手ニテ空罐ヲ持チ右足ヲケ
ンスノ下部ニ添ヘテ入レル

(11)

(FIG 4)



(12)

第四章 スライバー⁷ = 閉スル車

先立命 スライバー⁷ 継ギ

(1) 切断セル場合

- (1) Lレバー⁷ヲ下シドックア⁷ノ回転ヲ止
スル
- (2) ケンス⁷ヲ傾ケテスライバー⁷ノ口ヲ出シ
ケンス⁷ノ縁 = 掛ケ置ク
- (3) 手 = テ コイラーリット⁷ヲ拭フ
- (4) Lレバー⁷ヲ引キドックア⁷ヲ回転
スル
- (5) ウエブ⁷ヲドックア⁷ヨリ取りカレ
ンダー⁷ヨリコイラーリット⁷ノ穴ヲ通ス
- (6) 他ノ方ノ手 = テ チューブホロー⁷
ヨリ下ル スライバー⁷ノ端ヲ受ケ不正部

(13)

分ヲ土アリ継ギ合ス

- (7) 継ギ合シ方ハ 割リ継ギトス
 - (8) 継ギ合セ、重ナリハ $1\frac{1}{2}$ " 迄トス
- (2) 並掃除或ハ口ヲ土アリタル
場合
- (1) 口ヲ出シカレンダー⁷ヨリ出テツ、
アルスライバー⁷ガ 適當ノ太サトナリ
シキハ
 - (2) 前項ト全様ナル方法 = ヲリテ
継ギ合ハス

(14)

第五章 並掃除

第壹節 並掃除ノ概要

(1) 定員及組分ケ

(1) 定員2名台多キ場合ハ二組トス

(2) 口切口付ケハ台持工担任ス

(2) 回数

一日4回又ハ5回

(3) 携行用具

(1) 一般ニ使用スル草トス

(2) 使用出来ガレ工場ハ例外

(4) 並掃除ノケツ

(1) 目的

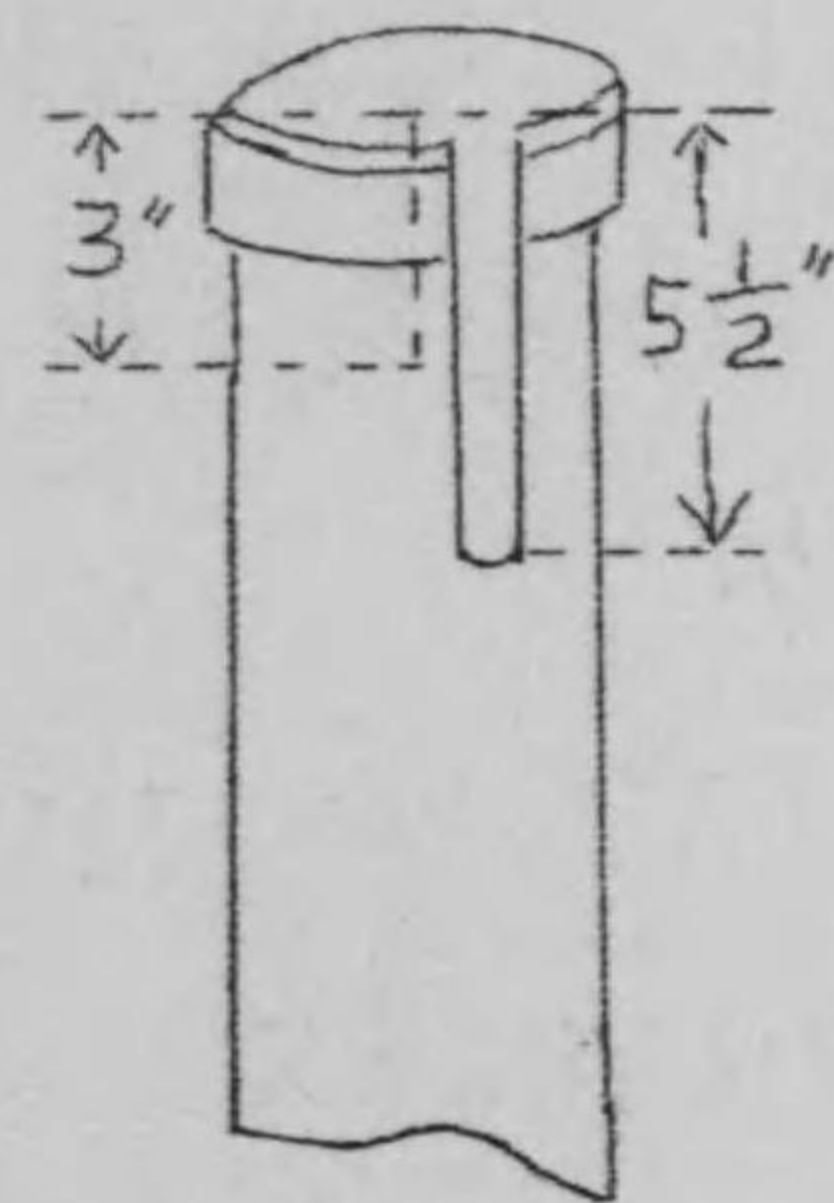
ドローイングノケツリベリニ並掃除ケ

(15)

ケツガ数本交ラサル様 FIG 5

ケツキマークヲ使用ス

(FIG 5)



(2) 方法

ケツ運搬方ハ自己ノ肩棉袋ニマ

ク若干本ヲ入レテ一本宛並掃除

ケツニ差ス、スライバーガケツニ丸

分通り以上トナルハ二本差シ显キ

ケツヲ換ヘタルハ一本ヲ換ヘタル

ケツニ差ス

(16)

(5) 並掃除、順序

台ト台ノ並掃除、順序ハ隔台ニ

スル必要ナク連続ニテナス

(6) 並掃除、各列ニ対スル割当

(1) 前列ヲ終リ成ル可ク時間ヲ隔テ

テ後列ヲナスコト

(2) 一例トシテ2列ノ場合、時間関係ヲ示セバ次表、如シ

(17)

休憩時間	掃除開始時間	並掃除列時間
15'	6-15'	1-15' 前
	7-30'	
	9-0'	
15'	9-15'	1-15' 前
	10-30'	
	11-30'	
30'	12-0'	1-30' 前
	1-30'	
	3-0'	
15'	3-15'	1-15' 前
	4-30'	
	6-0'	
15'	6-15'	1-30' 後
	6-15'	

(18)

(7) 夜警時計

- (1) 並掃除時間均等
- (2) 掃除方急慢防止
= 夜警時計ヲ用ルヲ便トス
- (3) 四回並掃除時間表

(FIG 6 参照)

(4) 五回並掃除時間表

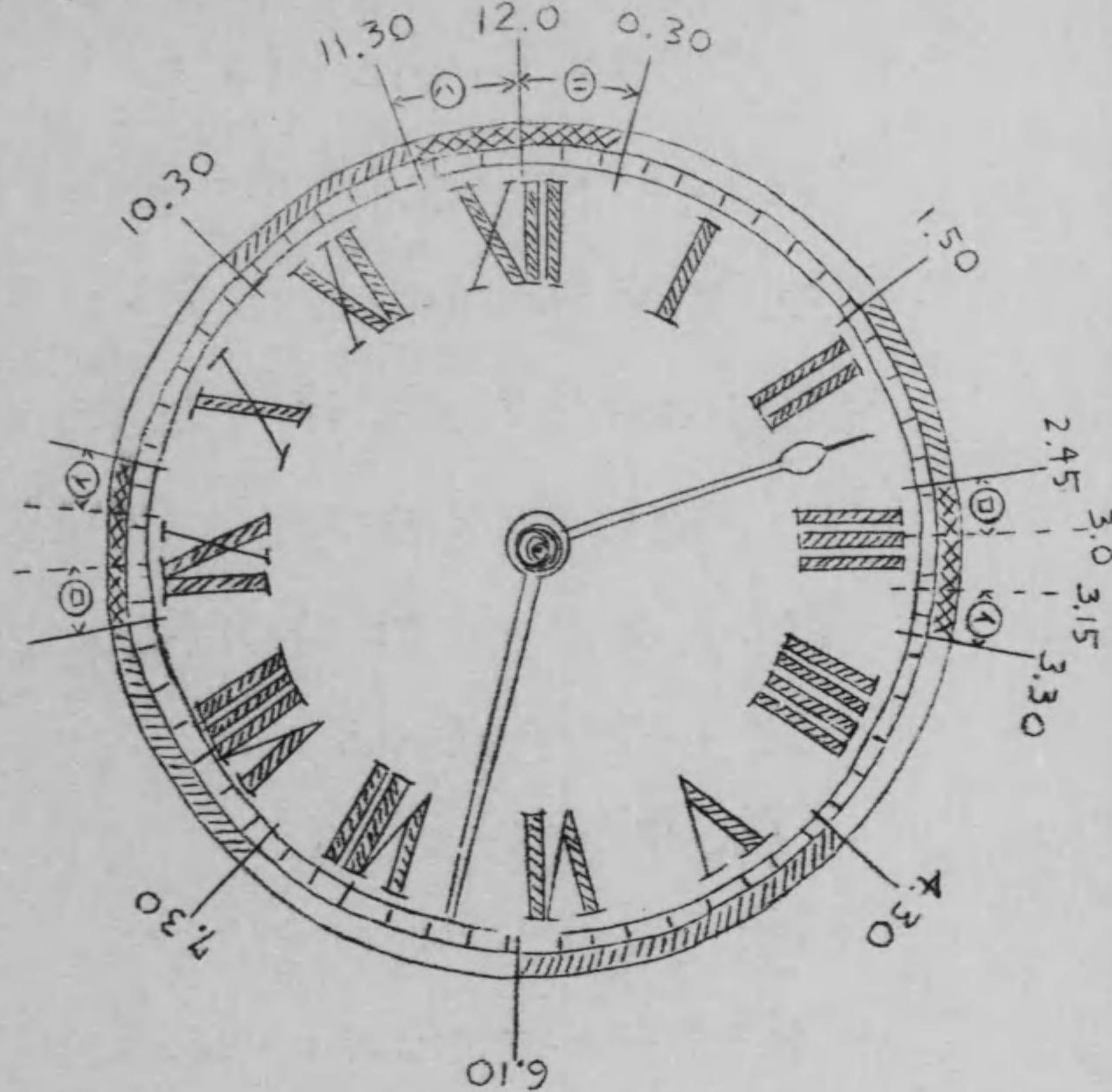
(FIG 7 参照)

(休憩區別解説)

- ① 台持工半数休憩
- ② 並掃除方及台持工半数休憩
- ③ 台持工全部休憩、此間休転
並掃除方「セリング」掃除
- ④ 並掃除方休憩

(19)

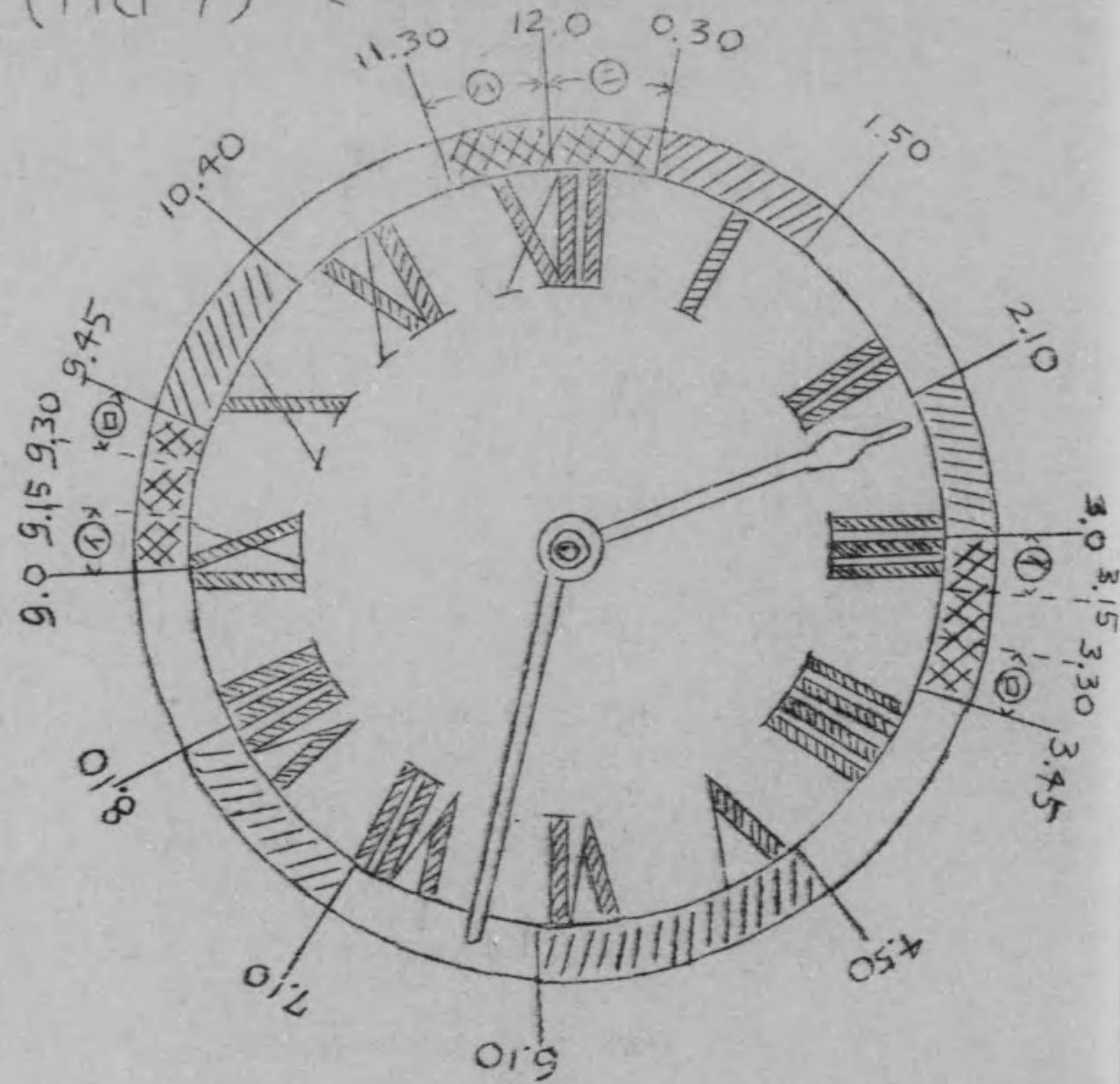
(FIG 6) (四回並掃除時間表)



- 前列並掃除
- 後列並掃除
- 休憩

[20]

(FIG 7) [五回並掃除時間表]



□ 前列並掃除
 ▨ 後列並掃除
 ▩ 休憩

[21]

第貳節 ロ仕カリ口付ケ

(1) 担任者

- (1) ロ仕カリ、其、隣リ、組、台持工
- (2) ロ付ケ、其、組、台持工

(2) 方法

(1) ロ仕カリ

ロ仕カリヲニ分シテ次ニ動作トス

(A) ロ仕カリ

(B) Lレバーヲ落スコト

(A) ロ仕カリ動作

(イ) サイドシャフトヲ寄セル

(ロ) ゲートシートヲ掃除ス

(ハ) ロヲ切ル

(ニ) ハンドルヲ交ハス

(ホ) ベルトヲ寄セル

[22]

(A) 金盞棉ヲ集ム

(B) Lレバーヲ落ス動作

(イ) 金盞棉ノ下リタルモノヲ取去ル

(ロ) Lストリッピングドアーヲ閉ク

(ハ) Lレバーヲ落ス

(ニ) Lウェブノ残りヲ取去ル

(2) ロ付ケ

ロ付ケルニ次ノ順序ニヨリ動作ス

(イ) Lライコム Lスライバプレート内面
Lボツアアカバー Lカレンダーカバー Lコイラー
リットヲ柄ブラシニテ拭ク

(ロ) ロヲ付ケル

(ハ) ロヲ継グ

(注意) 此ノロ付ハ大体並掃除工台
ノ時間ヲ有スルヲ以テ丁寧ニナスコト

[23]

(3) 仕事ノ手分け

(1) FIG 8ニヨリ單線ハオ一組ノ
台拵工ノ動作径路ヲ示シ、複線
ハオ二組ノ動作径路ヲ示ス

(2) ロ切リロ付ケノ手分けハ FIG 8
ニヨリ参照スベシ

第三節 並掃除後ノ屑棉取り

(1) Lダートシート屑及金盞棉ハ並掃
除ヨリ並掃除迄テ2回取ル

故ニ前ノ並掃除後、後列ノソレ
ヲ取ル

金盞棉ヲ集メ然ル後Lダートシートヲ
集メル

(2) 箆ヲ持テ来リ前列ノ金盞棉ト同時
ニ後ノモノヲ一緒ニ集ム

第四節 並掃除準備動作

(1) 並掃除、方向

凡テ「サイドシャフト」側ヨリ「ドライブング」側ニ向ツテ進ム

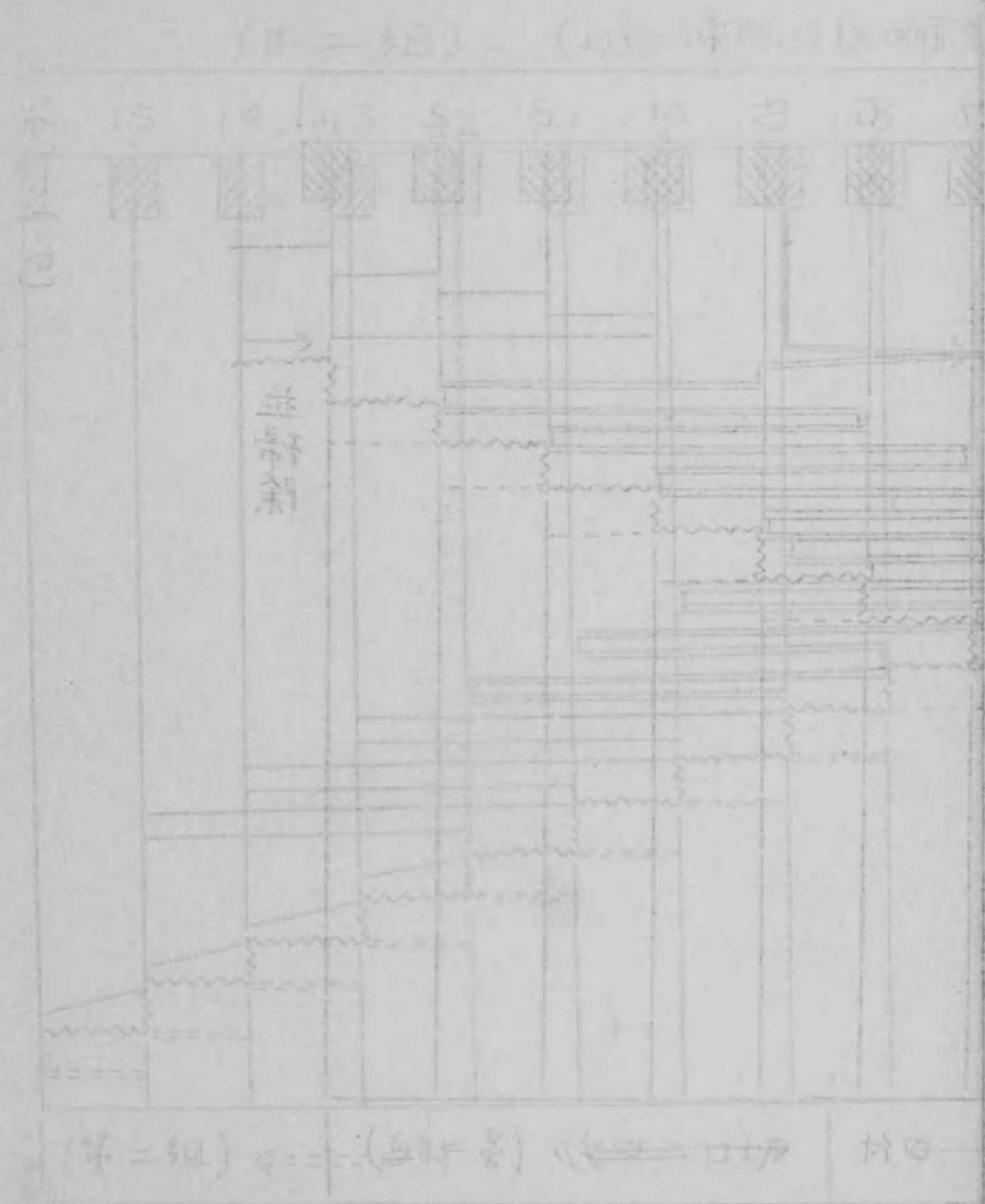
(2) 「ダストレムバー」取扱

(1) 「ダストレムバー」ニハ次ノ準備ヲ要スルモノトス

(イ) 「ストリッピングローラー」ハ「サポート」上ニ置クベシ

(ロ) 「シリンダー」掃除ノキハ「ファン」用ロープ「ハ」ダストボックス「上」ニ置クベシ(「サイドシャフト」側)

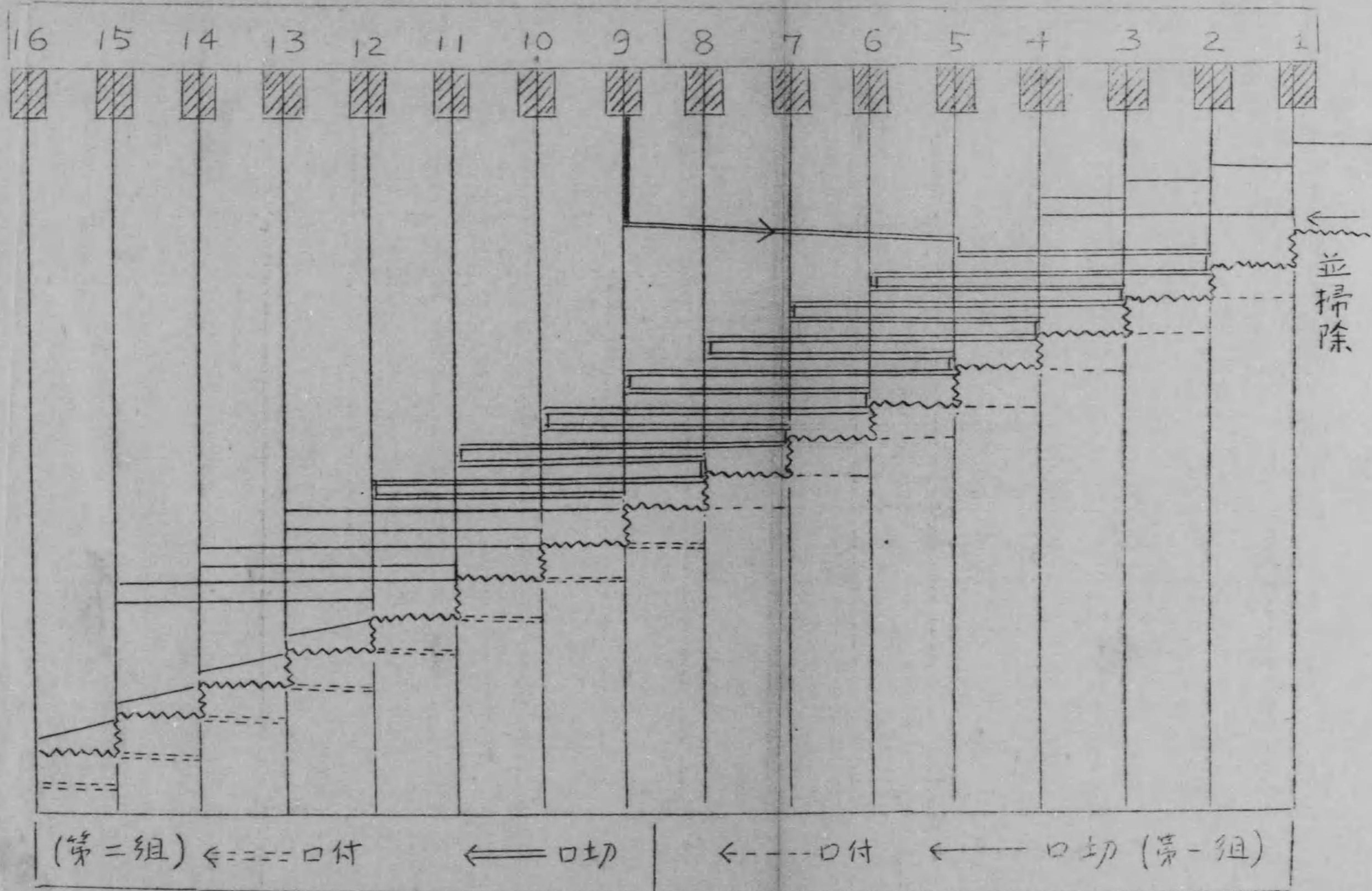
(ハ) 「ドロッパー」掃除ノキハ「ファン」用ロープ「ハ」レムバー「ハ」フック「ニ」掛ケ置クベシ(「サイドシャフト」側)



(FIG 8)

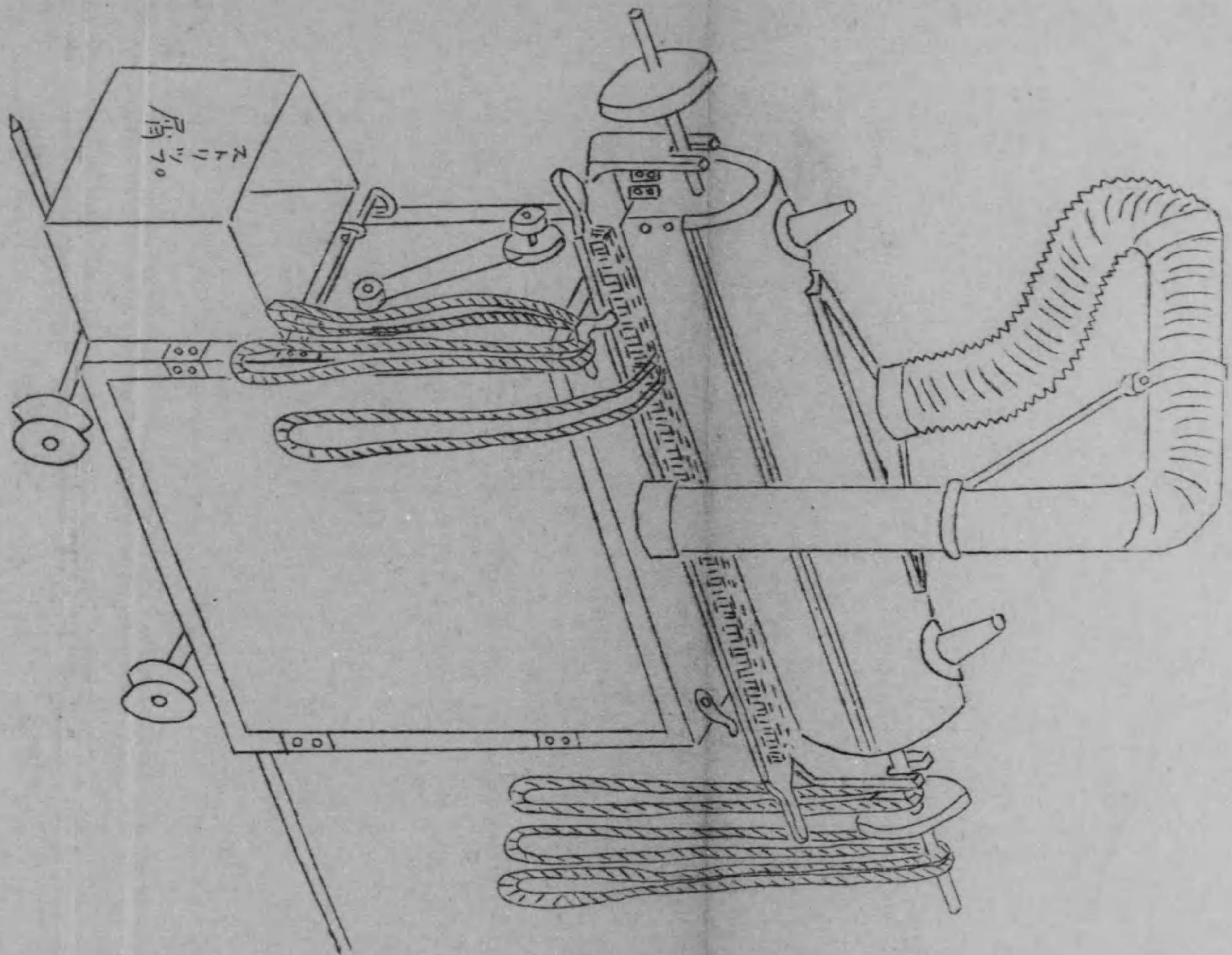
(第二組)

並掃除口切付徑路圖 (第一組)



(57) (26)

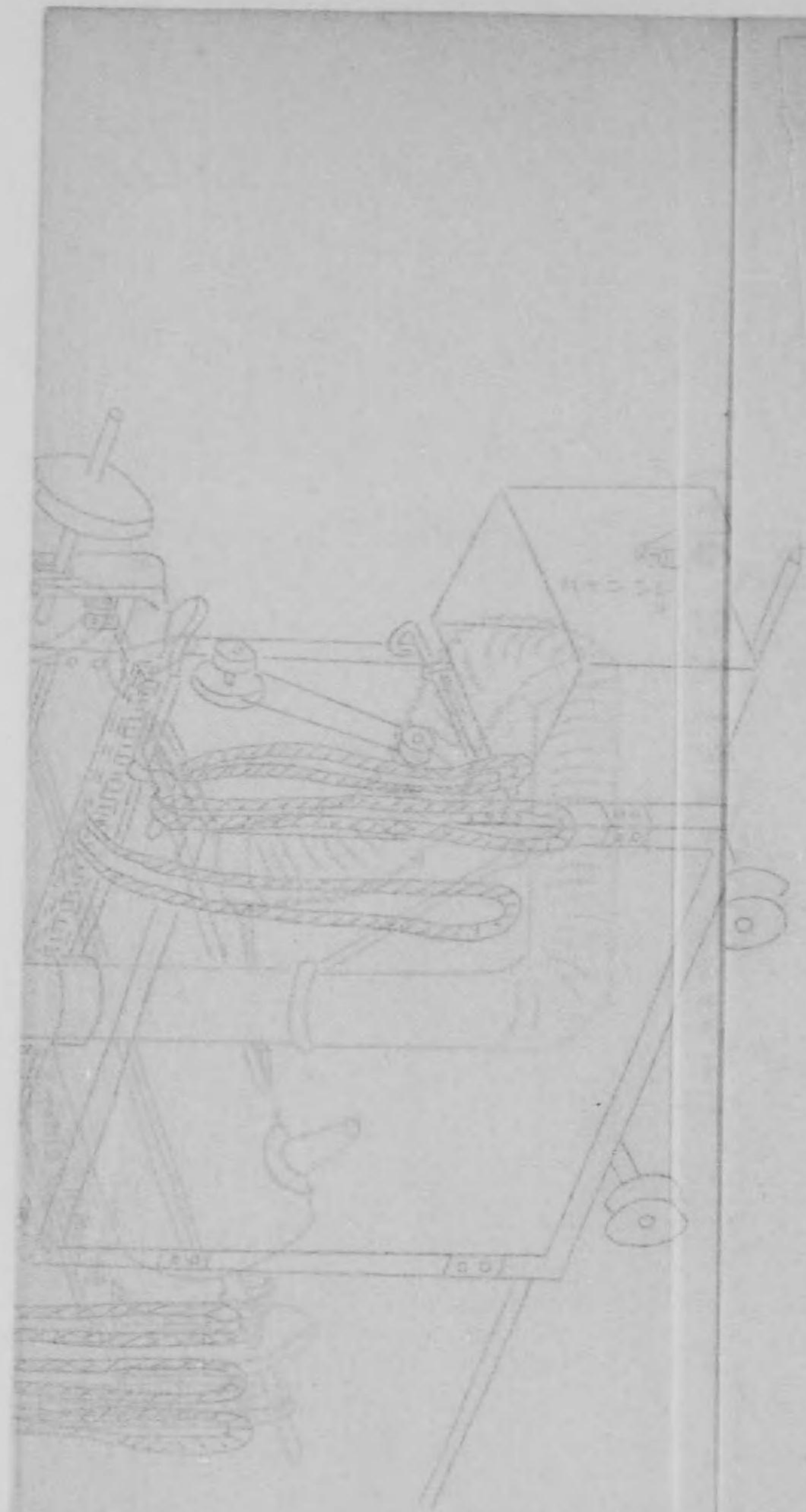
(57) (58)



(FIG 9) [「スリッパ」]

(27) (28)

(=) レ
 フォハス
 ケ置シ
 (ホ) レ
 ガストリ
 致スル
 イドシヤ
 (3) レ
 (4) レ



{29}

(ニ) シリンダー⁷用及ドックアー⁷用、ロー
フ⁷ハ、ストリッピングローラー⁷シャフト⁷ = 掛
ケ置クベシ (ドライビングプーリー⁷側)

(ホ) ヲ、ダストレムーバー⁷、フアン⁷プーリー⁷
ガ、ストリッピングローラー⁷、プーリー⁷ト
致スル所迄テ、ダストレムーバー⁷ヲ、サ
イドシャフト⁷側ニ、持テ来ルベシ

{3} シリンダー⁷掃除動作

(オ1表参照)

{4} ドックアー⁷掃除動作

(オ2表参照)

(第1表) シリンダー並掃除動作(左台)

順	サイドシャフト側	ドライビングフレーム側
1	ストリップングローラーをシリンダー ストリッピングブラケットに置く	ストリップングローラーをシリンダー ストリッピングブラケットに置く
2	長ロープをフックより取り、フアンを掛けたクロスにストリップングローラーを掛ける	長ロープをミッドシャフトより外レドックアーグラインディングブラケットに掛ける。歯垂れ、部分をドックアーシャフトに掛ける
3	バーブラシをコイルリットの上で持来	短ロープをクロスに掛けたローラーを回転し、ベルトを寄せ、シリンダーを四分回転
4	手で回転を助ける	手で回転を助ける

5	シリンダーの回転を止める	シリンダーの回転を止める
6	ロープを押して外レシャフトに掛ける	ロープを引いて外レシャフトに掛ける
7	左手でローラーを上げ、右手でフックを寄せる	右手でローラーを上げ、フックを左手で寄せる
8	右手でバーブラシを持来、他端を相手で持たす	左手でストリップングローラー、カバーを用いたバーブラシの端を受取る
9	ローラーを廻してストリップスをつける	ローラーを廻してブラシをつけてストリップスをつける
10	フックを戻す。全時バーを受けたストリップスを取り去り箱に納め、バーをリットの上で置く	ブラシを渡してフックを戻す
11	(3)より、重動作を繰返	(3)より、重動作を繰返

[32]

	シ残り六分ヲ行フ	シ残り六分ヲ行フ
12	レバーヲレムバー上ニオク	
13	レシリンダーヲ1周回転セテ レストリップスヲトル	レシリンダーヲ1周回転 レテストリップスヲトル (但レローラーニ附着セタ ルレストリップスノ具ノ終 ドッファーニ移ル)
14	長ロープヲレムバーノ レフックニ掛ク	引キ外シタル短ロー プヲレローラーノ中側 ニ掛ケル

[33]

(第2表) ドッファー並掃除動作(左台)

順	レサイドシャフト側	レドライブングローラー側
1	レシリンダーヨリローラーヲ 外シテドッファーブラケット トニ移ス、短カキロー プヲレムバーヨリ取り ファンニ掛ケ他端ヲロ ーラーニ掛ク	レシリンダーヨリローラーヲ ドッファーブラケット上 ニ移ス、油ロープノ 垂レタル部分ヲハン ドルニ掛ケル
2	レシリンダーストリップング ドアヲ閉ヂ、レサイドシ ャフトヲ寄セル	長ロープヲ取り、レロー ニ掛ケ、ドッファーヲ1 回転ス
3	ロープヲ引キ外シテ ニ取ル	ロープヲ引キ外シテヤ フトニ掛ク
4		レベルトヲ寄せ、回転 ヲ掛ケル

(34)

5	ローラーヲレムバー =返ス	ローラーヲレムバー =返ス
6	ロープヲレムバー クス上=オク	レバーヲ上ゲル ハンドルヲ廻ス
7	レムバーヲ押しテ次 ギノ台へ移ル	

(35)

第五節 並掃除方心得

(1) 並掃除動作ハ二人共同ノ作
業ナレバ氣合ヲ合ス事

(2) ストリッピングローラーハ叩き
取扱フベシ

(3) ストリッピングローラーヲシリンダー
ヌハドックアールヨリ外ス時ハ少し廻ス
心持ちヲ引キ上ゲル事

(4) ストリッピングローラーノゲージハ保
全ナド針ノ度毎ニ吟味調整スル
コト

(5) 並掃除用ロープノテンション
ニ注意スル事

(6) ストリッピングローラーノ針面ハ他
物ニ接触セサル様特ニ両耳ヲ換

{36}

傷セガル様=スルコト

(7) 並掃除屑ヲ他ノモノト混ぜガ
ル様=スルコト

(8) レバー、ファン及ストリッピング
ローラーハ全時=運転開始スル様=
スルコト

(9) グラストパイプ、グラストボックス及
ズック、掃除或ハ洗濯ハ屢バ行
ナフコト

第六節 並掃除方並=掃除

以外ノ仕事

(1) 仕事ノ範圍

並掃除方=ハ並掃除ト並掃除ト
ノ間ノ時間=他ノ適當ナル仕事ヲナ
サレムベシ。其ノ仕事ヲ列記スレバ

{37}

(1) ベント間屑棉巻取掃除

巻取棒 1日1回 餘裕アルキ

(2) カスタイオンレール掃除

塵拂ヒ 1日1回

(3) トツポ中掃除

トツポ巻取棒 回数適宜

(4) シリンダーケーシング掃除

中食休転中 回数適宜

(5) テーカーケーシング掃除

毎夜 ケーリングブラシ

(38)

第六章 掃除

(1) 掃除、周期

掃除、並掃除口切り口付々ヲ終
リタル時ヲ境トシテ各掃除動作ヲ
始メ次回ニ其組、並掃除ヲ始ム
ル迄ニ全動作ヲ終ル事

回数、並掃除回数ト全様

(2) 中途並掃除及ラップ替、 起リシ時、所置

掃除ヲ中止シテ其方ニ行クベシ

(3) 屑棉箱、位置

各組ニ1個宛ニ常備シ、位置ハ
近キ便利ナル所ニ定ム

(4) 道具、置場

(39)

掃除ヲ始ムルニ便利ナル所

(5) 掃除、道筋

掃除動作道筋表、通り

(FIG 10.11) 参照

(6) 掃除箇所回数及道具

(第3表、第4表、第5表) 参照

(7) 台持ニ対スル注意

(1) ベルト、ロープ類、運転中、操
縦ハ危険ナルヲ以テ必ず“外側ヨリ
手ニ行ヒ内側ヨリ為サレムベカラズ”

(2) 運転開始、際必ず“校台、音
響”ニ注意シ、些少ナリモ異音ヲ発ス
ルモノアルキハ直ニ“停止後責任者”ニ
報告セシムルコト

(3) ラップ、不正ナルモノ及ビ不良

(40)

ナリ部分ハ使用セシメザルコト

(4) ヲラップ⁷ = 粘着又ハ皺、寄り居ルモノ等ナキ様注意セシムルコト

(5) ヲラップ⁷ヲ多量ダ⁷ハ打棉機⁷ニ於ケル巻初メノ部分又ハ新ラップ⁷ノ端等ノ不正部分ハ除去シテ叩⁷寧⁷ニシテ継ガシメ二重又ハ薄キ部分ナキ様継ギ目ヲ手ヲ以テ押ハ置クコト

(6) ヲラップ⁷中⁷ニハ混打棉機⁷ニテ未除去ノ諸種ノ雜物ヲ有スル事多キヲ以テ常⁷ニ之レガ除去⁷ニ急⁷ラザルコト

(7) ヲラップ⁷ロット⁷ノ曲レルモノハラップ⁷ノ戻ケ⁷ニ對シテ障害トナリ無理ナルトラフト⁷ヲ生ゼシムルモノナレバ不正ナルロット⁷ヲ區別シテ除去スベシ

(41)

(8) 口付⁷ナレタル片ノラライバー⁷ノ端ハ適當ノ太サトナル迄テ切⁷除キ殊⁷ニ並掃除⁷後ハ少クモ了石馬位切⁷リ除カシムルコト

(9) ラライバー⁷ノ継ギ合せ方法ハ割⁷継ギ⁷所カ行⁷ノコト

(10) ラライバー⁷ケンス⁷ハ各種ノマーク⁷ニ注意シ入換⁷ハ可成⁷全一時ナル様注意スルコト

ケンス⁷ノ破損品ヲ使用セシムベカラズ

(11) 並掃除⁷後ハ必ずマーク⁷ヲケンス⁷ニ付スルコト

(12) カムシャフト⁷ガ回転セザルモノ又ハベルト⁷外レ居ルモノ等ノタメニ

[42]

「フラット」が停止セルモノナキ様注意スベシ

(13) 並掃除中ト虽モ絶エズ自己受持台ノ全台ニ注意ヲ拂ハシメ敏捷ニ動作ヲナシムルコト

(14) 各棉種ノ落棉ト再用棉ヲ混合セザル様注意スベシ

落棉排出右各パネルドアハ堅ク閉鎖セシメ置クベシ

(15) 「ラップ」層及「スライバ」層ハ
「トウ」=取扱ヒ油氣アル箇所ニ置クベカラズ規定ノ容器ニ納メシムベシ 猶「スライバ」層ハ成ル可ク容器ニ納ムル前ニ少サク切断シ置クベシ

[43]

(16) 各部ノ掃除ハ規定ノ用具ヲ用ヒ「トウ」=掃除スル事、但シ「ウエア」上ニ風棉塵埃等ノ落下混入ヲ防グコト

尚ホ掃キ寄せ風棉油棉ノ処置ハ規定ノ如ク実行セシムベシ

(17) 各部ノ「クリヤラ」ハ「トウ」=掃除セシムベシ

特ニ「フキ」ドローラークリヤラノ両端ニ風棉ガ過分ニ巻キ付キ、回転セザルモノアルコトヲ注意スベシ

(18) 「フライコム」=棉ノ引掛リテロ付スル事アリ、又両端ノ部ヨリ棉塊ノ玉ガ出来テ「ウエア」ト共ニ「スライバ」

(44)

トナルモノアリ之等ハ発見次第匡正
スベシ

(19)交代休憩中台ヲ見廻ル
ニハ台持人数少クナルヲ以テ一層
敏捷ニ立廻リ機台ニ注意スベ
シ

(20)總テ機台器具ノ取扱ヲ
叮嚀ニシ針布ノ保存ニ対シテ慎重
ナル注意ヲ以テ作業ニ粗暴ノ取扱
ヲナス可ラス

(45)

(第3表) 掃除箇所回数道具表

掃除箇所	回数	道具	摘要
カレンダーローラー カバー	1並掃 除=4 乃至8回	手又ハ 巻取棒	
前掃除	全上 4-8回	柄刷子 及塵拂	
後掃除	全上 全上	全上	
フレームサイド	全上	全上	
床	全上	箒	
フラット屑集	1日= 8-10回	手	
ダートシート屑集	全上	柄刷子	
レーカーイン屑集	1日= 1-2回	箒及 杓子	

(46)

シリンダー ⁷ ドッファ ⁷ 下 屑集メ	3日毎 =1回	屑出し	工場掃除 =2回変更
ガラスバー ⁷ コム ⁷	1日= 2回	コム用 種木	
ノキ-ドローラー ⁷ クリ ヤラー ⁷	全上 全上	手	
バンド ⁷	1日= 1回	巻取針 及ヒ バンド ⁷ 鉤	
トッポ ⁷ ノ内部	全上	塵箱	
テーカーイン ⁷ ファンダー ケ-リング ⁷	1昼夜 =1回	テーカーイン -リング ⁷ ブラシ	夜之レヲ 行フ
シリンダー ⁷ アレンダー ケ-リング ⁷	2.3昼 夜=1回	シリンダー ⁷ ケ -リング ⁷ ブ ラシ ⁷	昼之レヲ 行フ
レベルト ⁷	1昼夜 =1回	レベルト ブラシ ⁷	

(47)

コイラーボックス ⁷	1週= 1回	破布	
ロー ⁷ 掃除及 黒鉛塗	全上 全上		
スモールサーキユラー ブラシ ⁷	全上 全上	手	

(48)

(第4表) 台持工掃除動作
(第壹回並掃除)

順	掃除道具	掃除箇所
1	箒、杓子	シリンダー ⁷ 、 ⁷ トッパ ⁷ 下層出シ
2	柄刷子、塵拂	フレームサイド ⁷ 及ヒ ⁷ 後廻リ
3	箒	床
4	手	アキドロロー ⁷ クリヤラー ⁷
5	巻取棒、ベルト ⁷ 鉤	ベルト ⁷ 1/4

(第貳回並掃除)

1	箒、杓子	テカーイン ⁷ 下層出シ
2	柄ブラシ、塵払	フレームサイド ⁷ 及後廻リ
3	箒	床
4	コム用檜木	スパイラルブラシコム ⁷
5	巻取棒、ベルト ⁷ 鉤	ベルト ⁷ 1/4

(49)

(第三回並掃除)


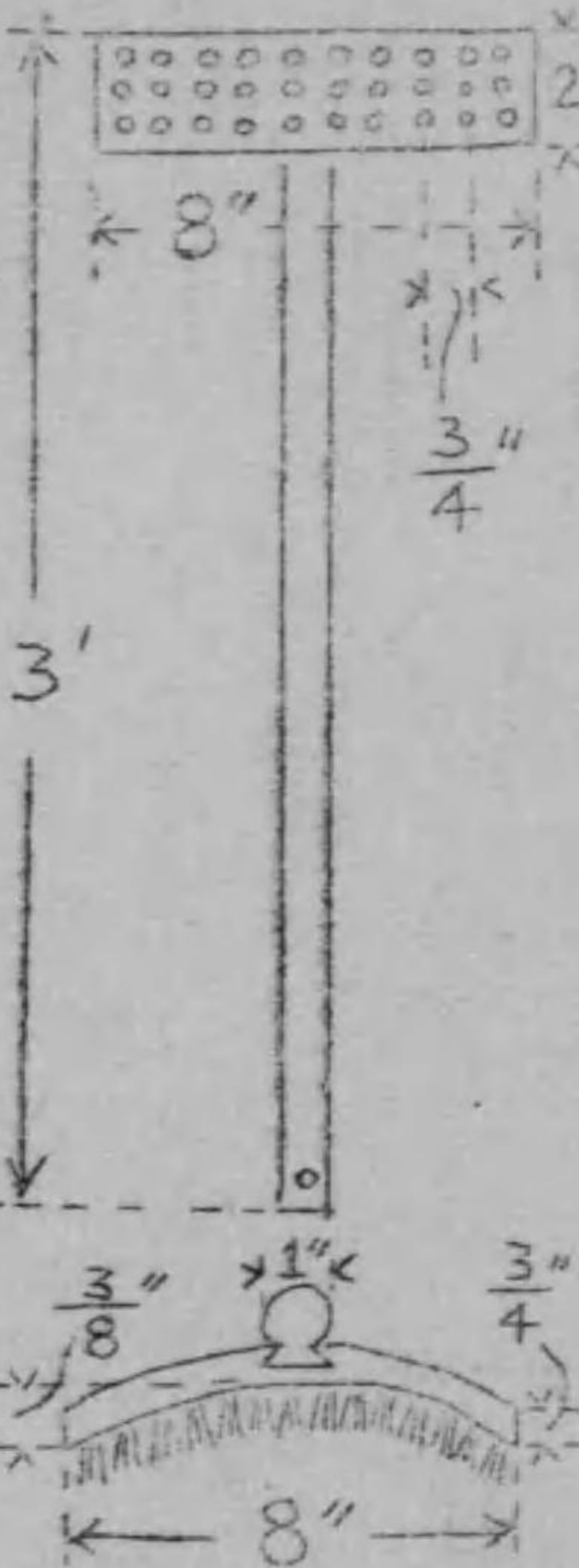
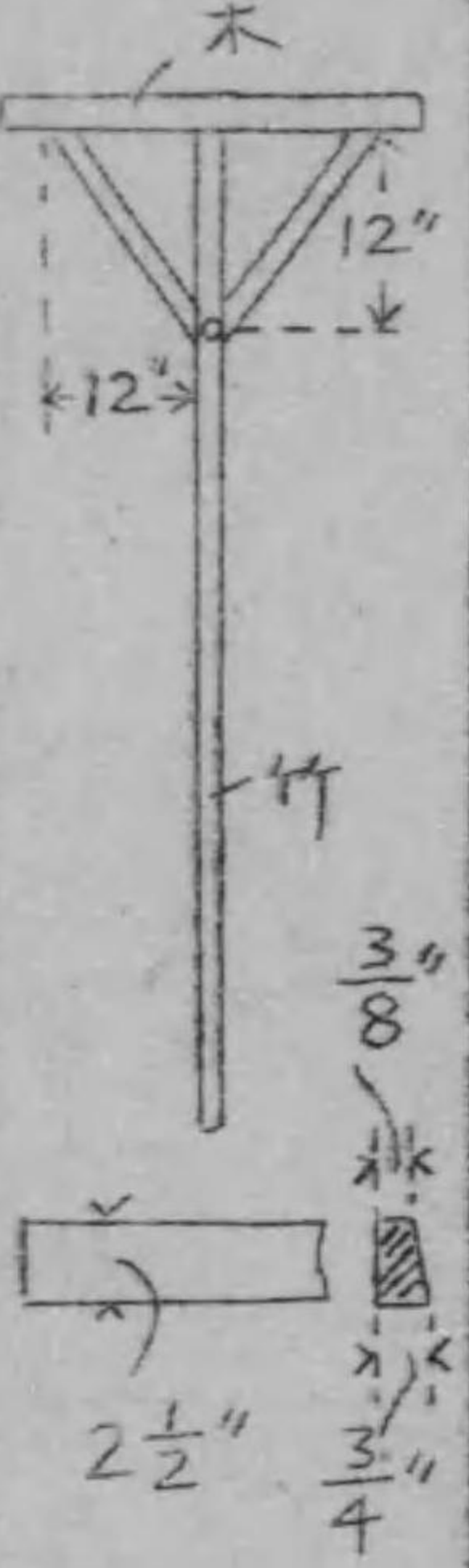
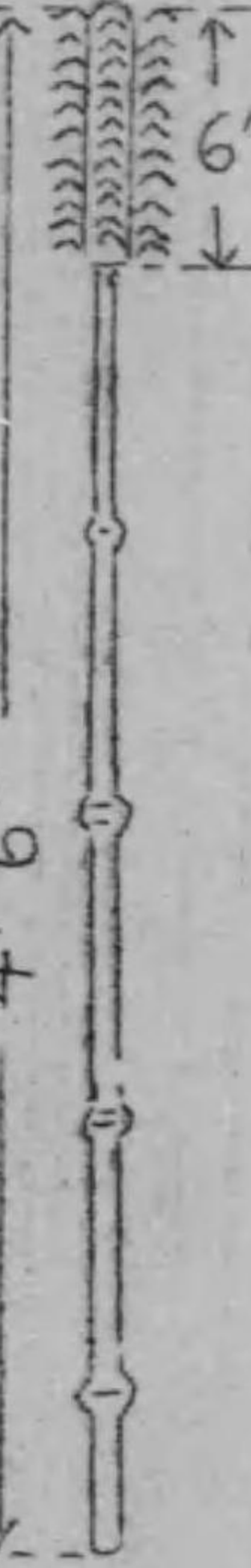
1	ベルト ⁷ ブラシ ⁷	ベルト ⁷ (昼ミ)
2	柄ブラシ、塵払	フレームサイド ⁷ 及後廻リ
3	箒	床
4	手	アキドロロー ⁷ クリヤラー ⁷
5	巻取棒、ベルト ⁷ 鉤	ベルト ⁷ 1/4

(第四回並掃除)

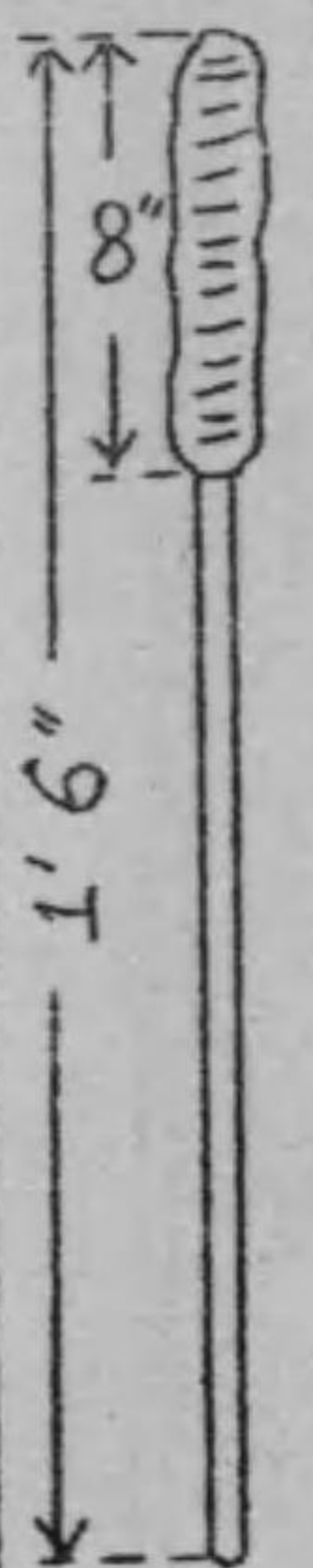
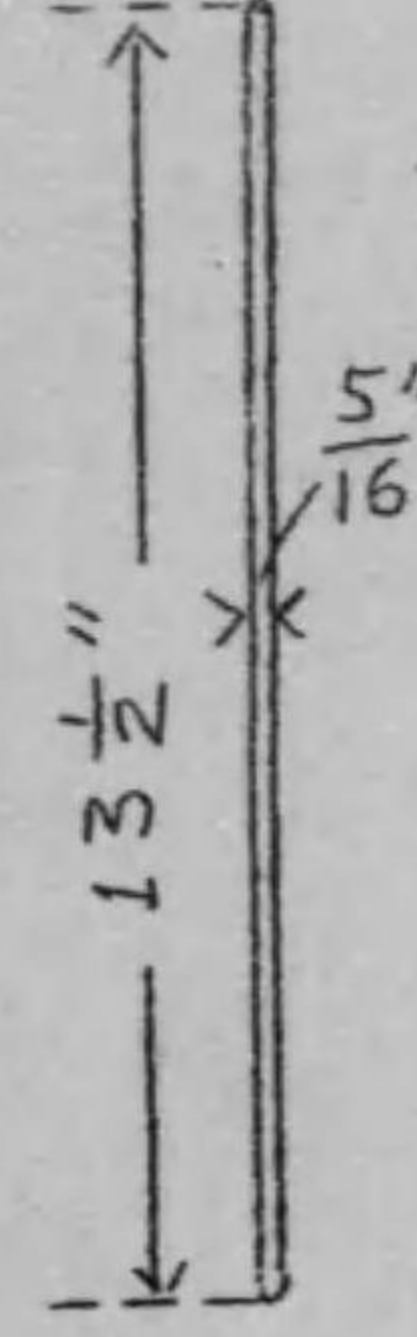
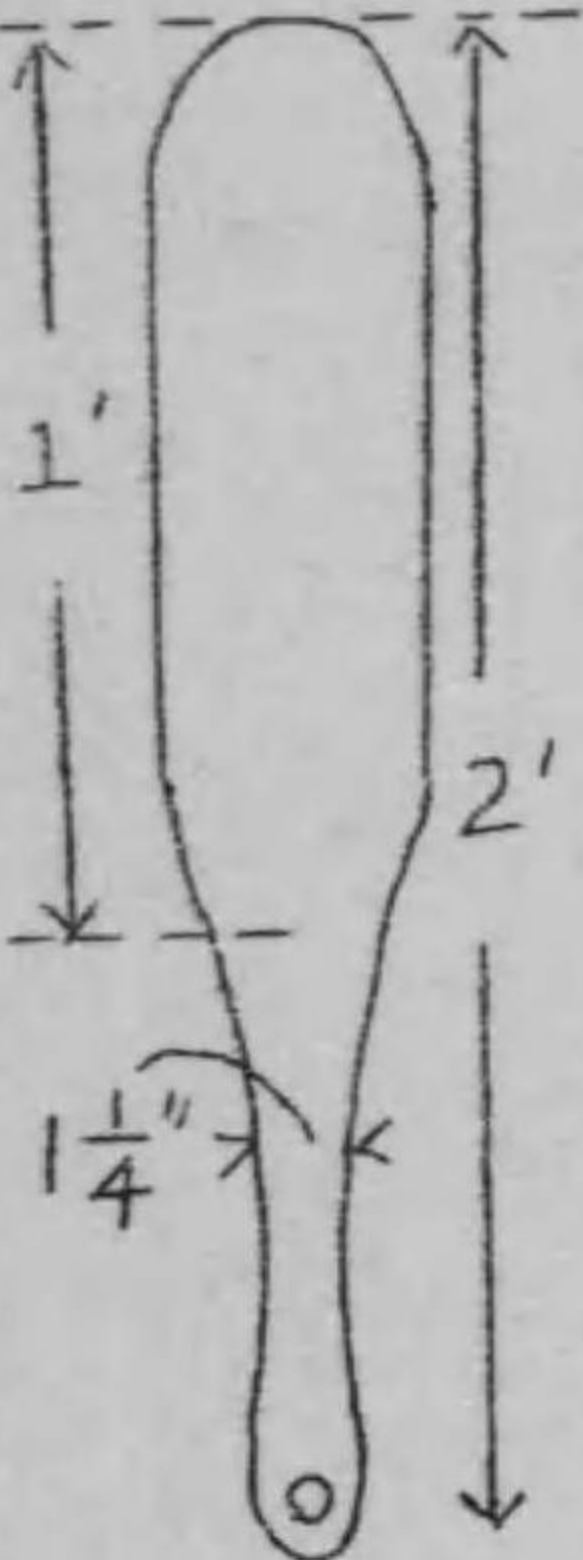

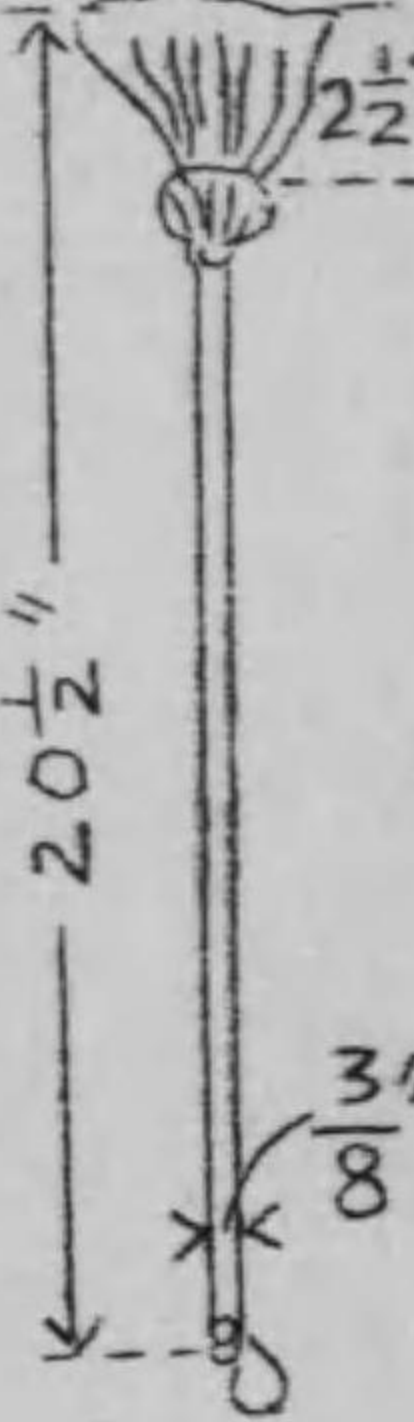
1	箒、杓子	テカーイン ⁷ 下層出シ
2	柄ブラシ、塵払	フレームサイド ⁷ 及後廻リ
3	箒	床
4	コム用シモク	スパイラルブラシコム ⁷
5	巻取棒、ベルト ⁷ 鉤	ベルト ⁷ 1/4

[50]

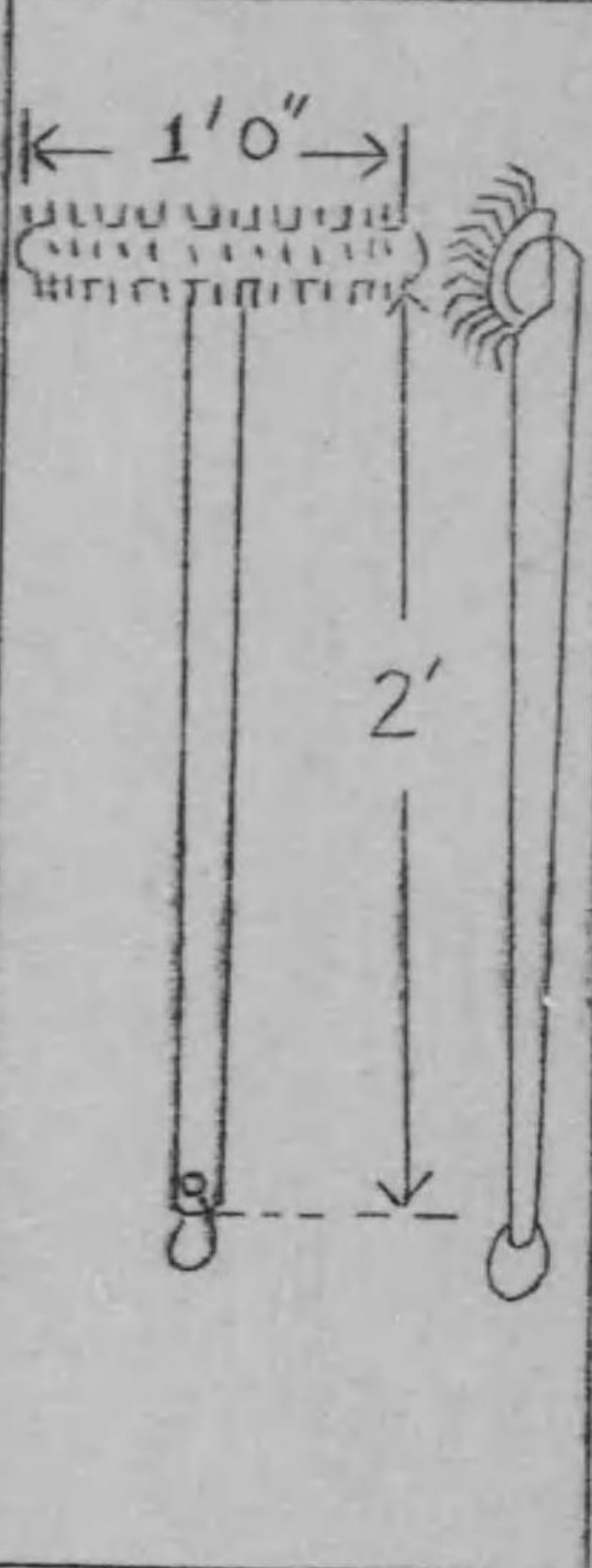
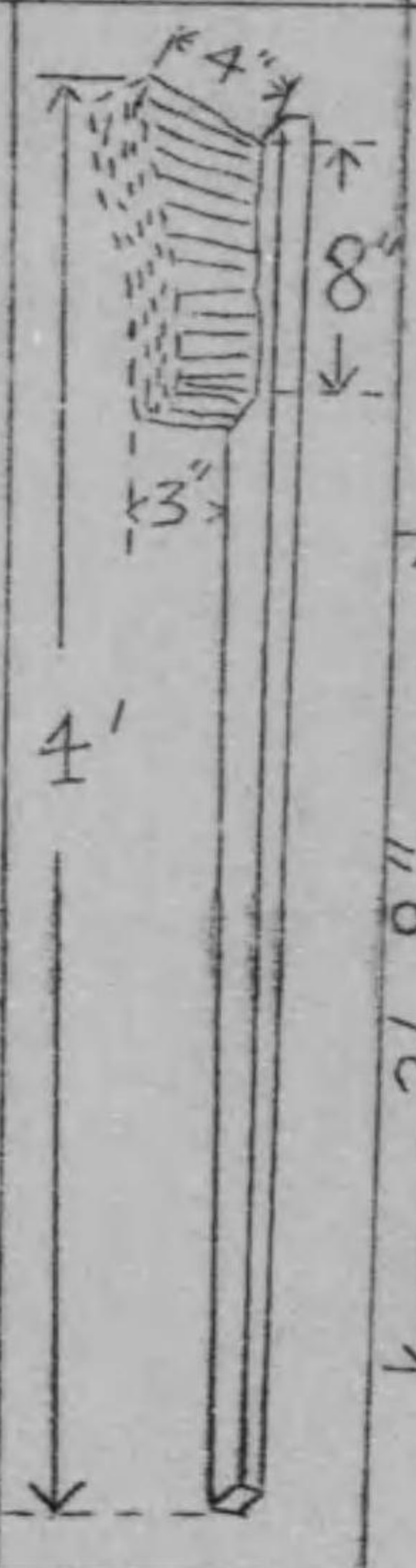
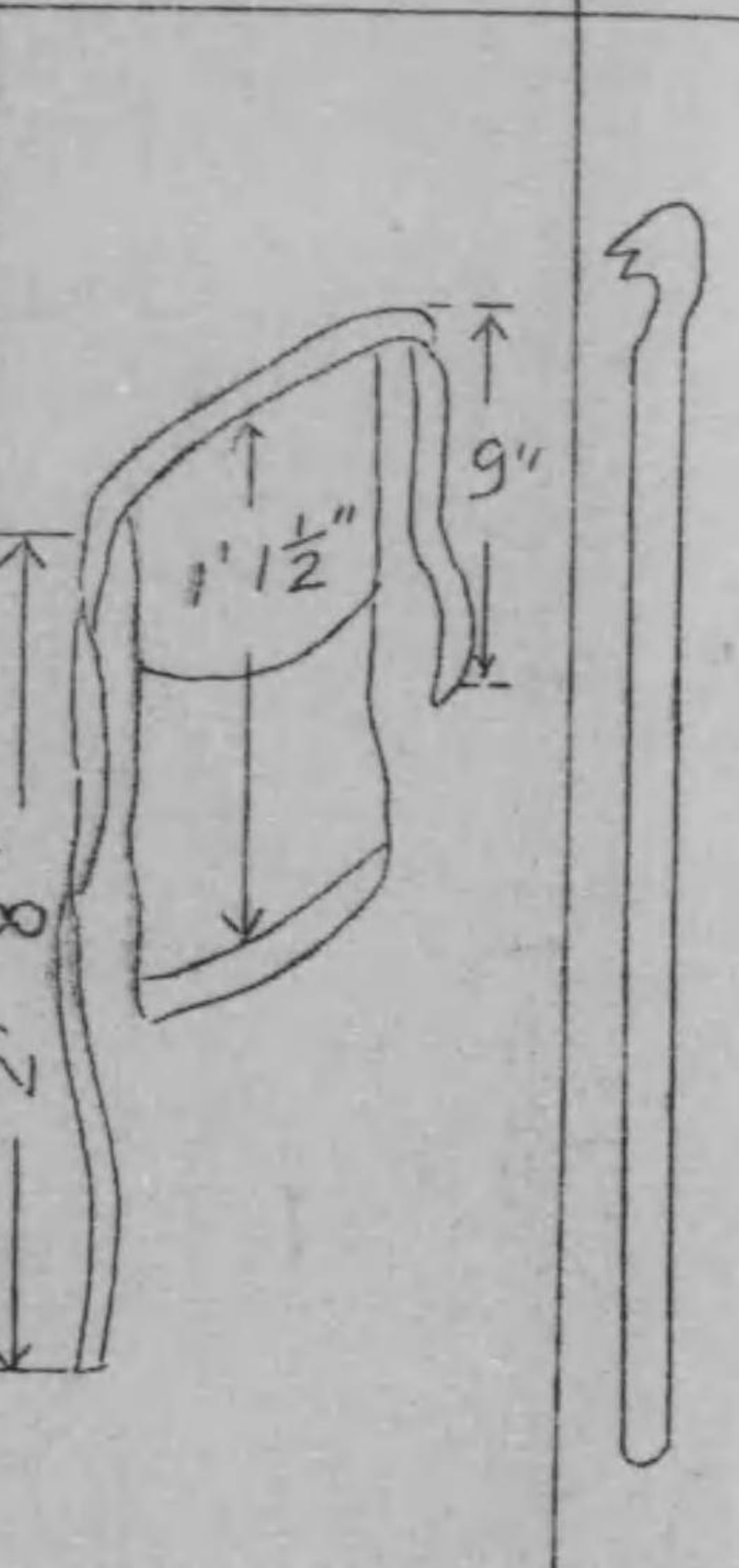

(第5表) 掃除道具図解

道具名	竹帚	シリンダーケージ ダブラシ	シリンダー ドッファ 屑出し	トツ 巻取棒
図解				
掃除箇所	床 面	シリンダーケージ 下面	シリンダー ドッファ 屑出し	トツ 70



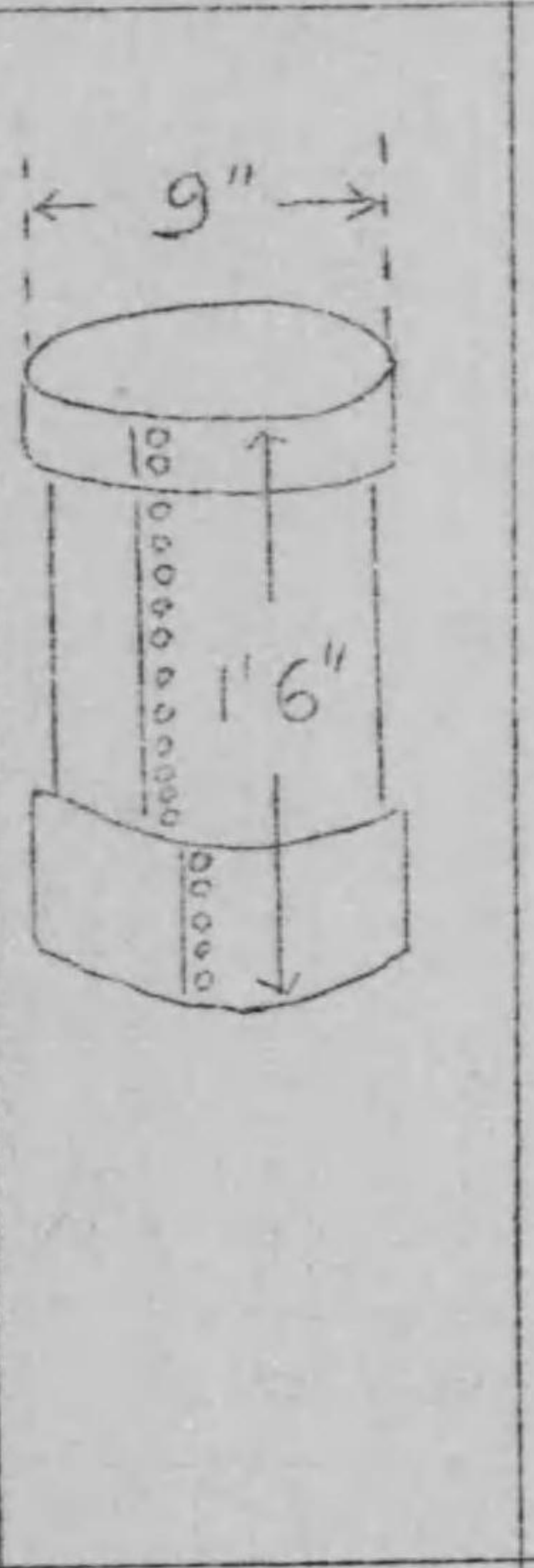
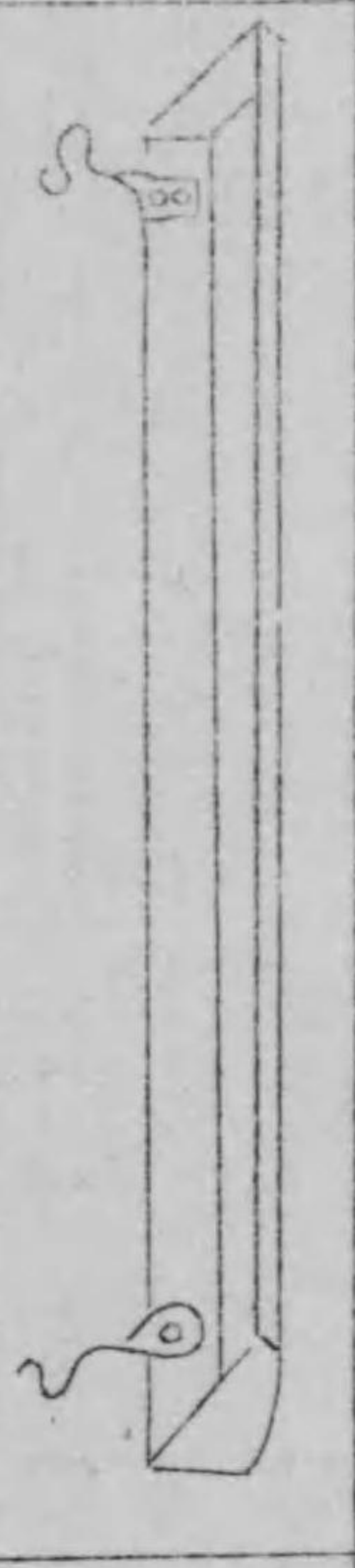

[51]

巻取棒	巻取針	杓子	柄ダ ブラシ	塵 拂
				
スライバプレート廻リ スライバガイド内面	ヘンダ廻リ	「テカーイン」下 「シリンダー」下 「ドッファ」下 屑出し	「フレームサイド」 及後廻リ	「カステアイアレベル」 「フレーム」細部

(52)

「コム」用 榎木	「テ-カーインケ -シングブラシ」	屑棉袋	ベ ン ド 金 釘
			
「スパイラル ブラシ」	「テ-カーインケ -シング」 及ビ「フラツト」	腰部=下ゲ 屑棉入レ	ベ ン ド 廻 り

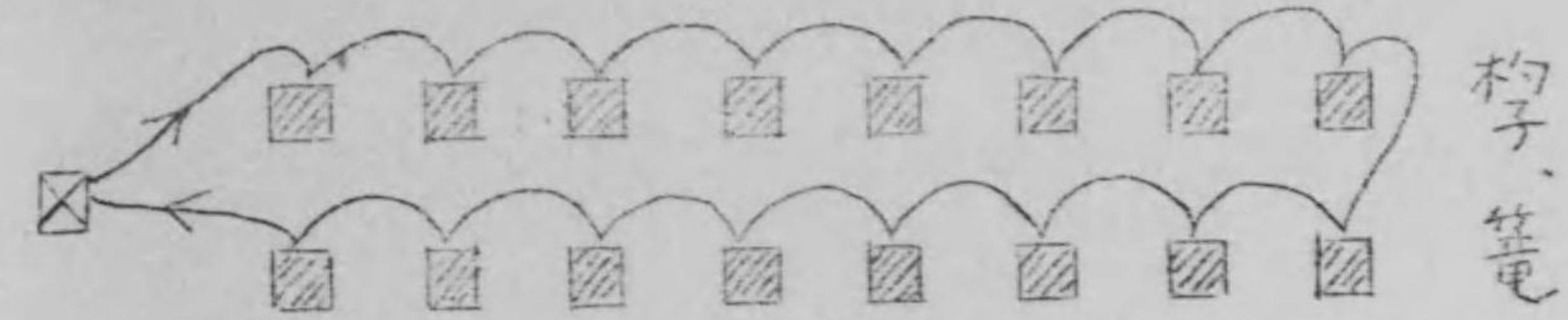
(53)

「スト リッ ピン ゴ ラ ー」	「ベルト」 「ブラシ」	塵 箱	「カ ス ト ア イ オ ン レ ー ル」 塵受	破布
				
並 掃 除	「ベ ル ト」	「カ ス ト ア イ オ ン レ ー ル」ノ 砂塵入	「カ ス ト ア イ オ ン レ ー ル」	油 穴 「コ ム ホ ツ ク ス タ ン ド」 廻 り

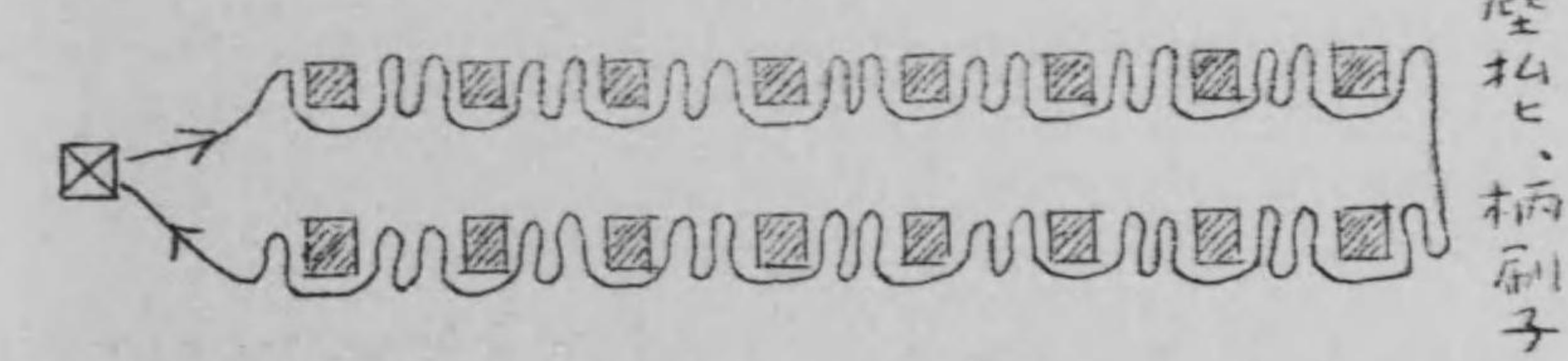
(55)

(FIG 10) [掃除動作道筋]

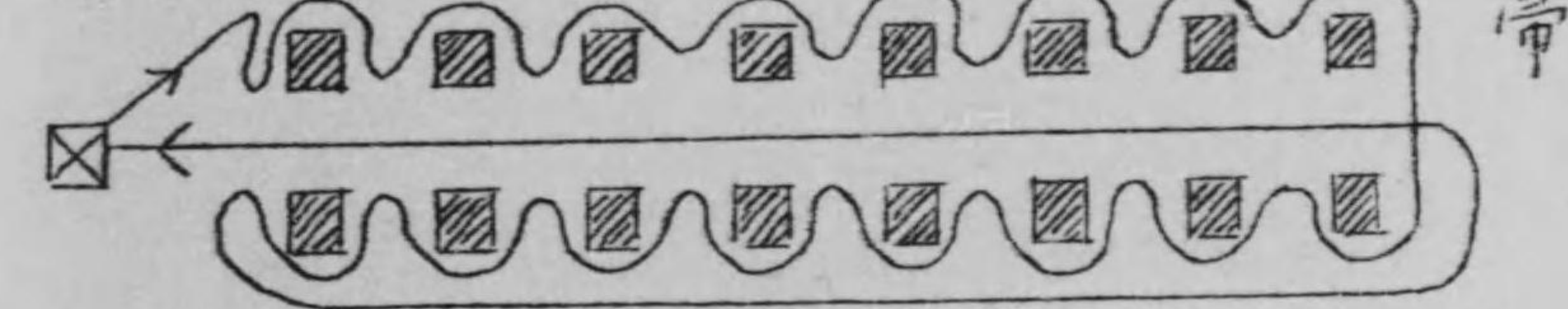
(1) シリンダー、ドックアー、屑出し 道具



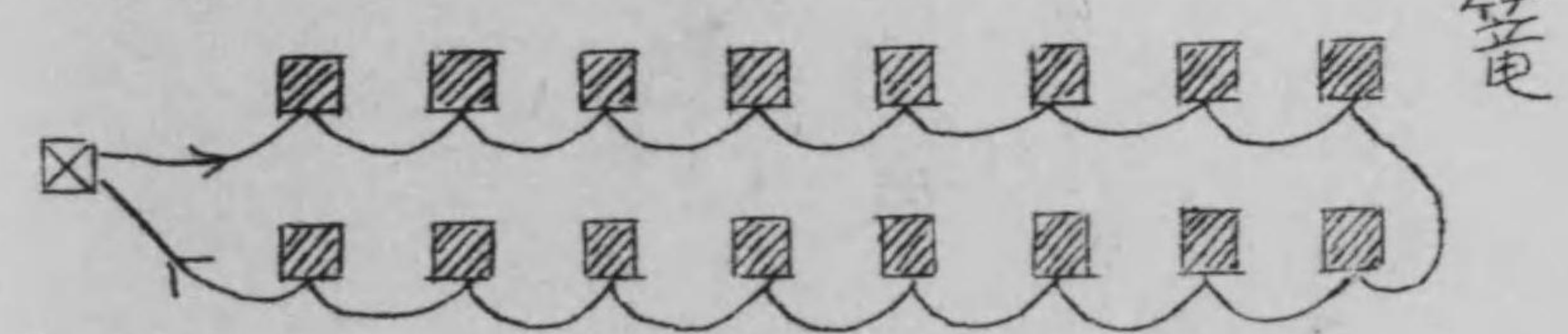
(2) フレームサイド、及後廻リ



(3) 床

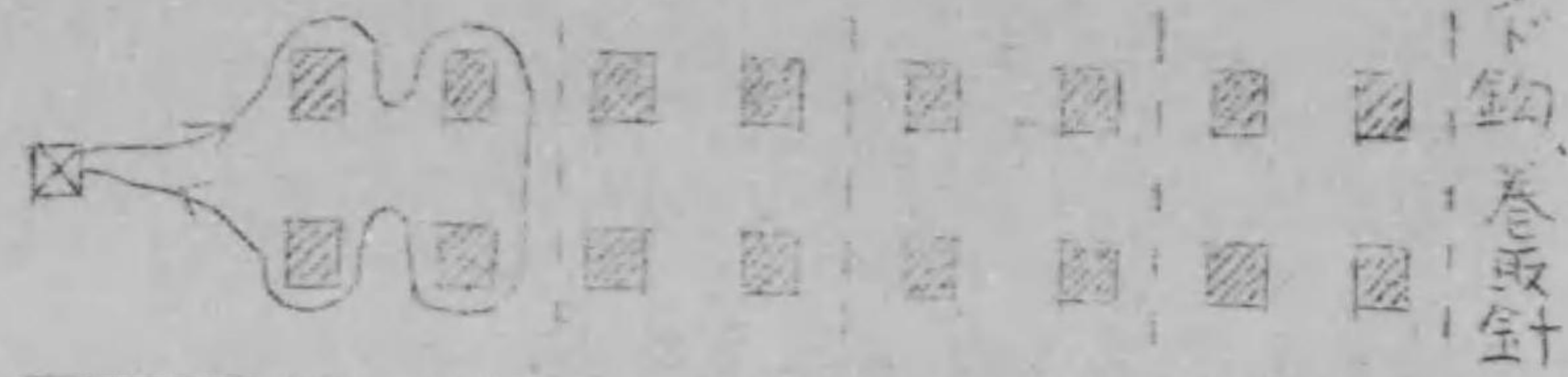


(4) サードローラー、屑取

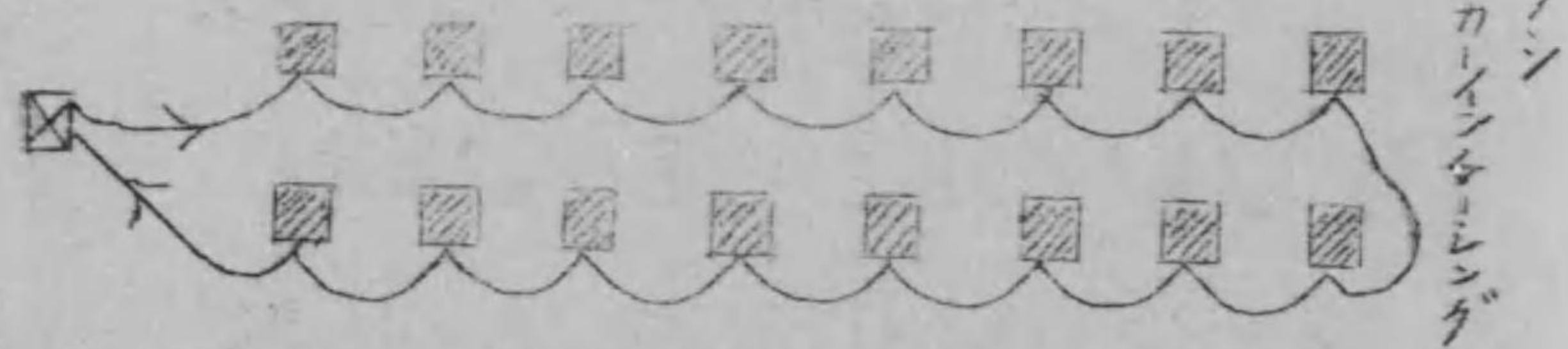


(56)

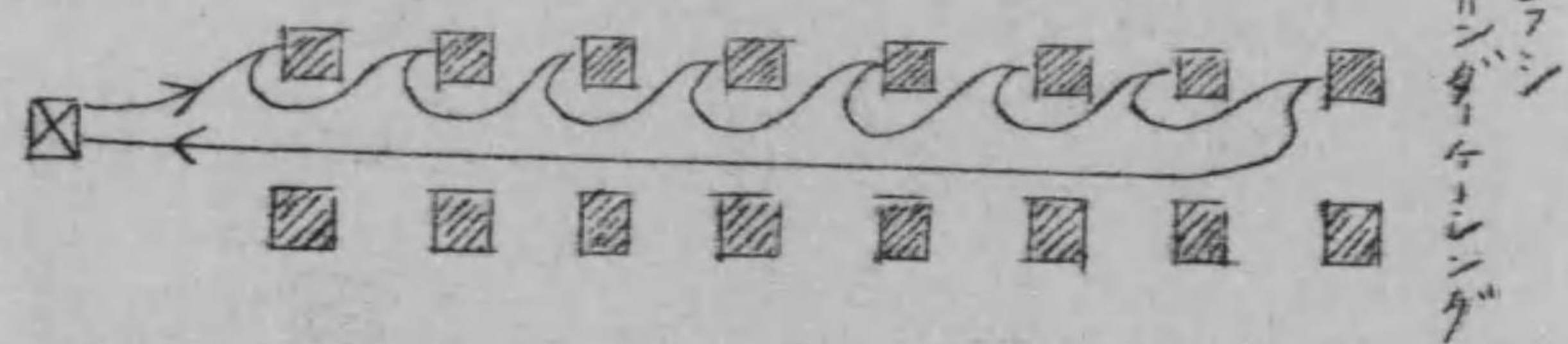
(5) ベンド⁷ 1/4



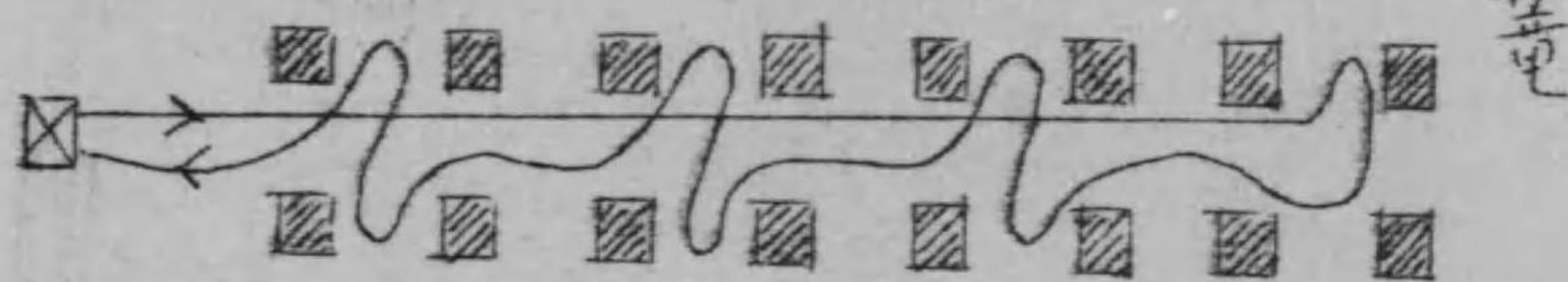
テーカーインケーシング⁷



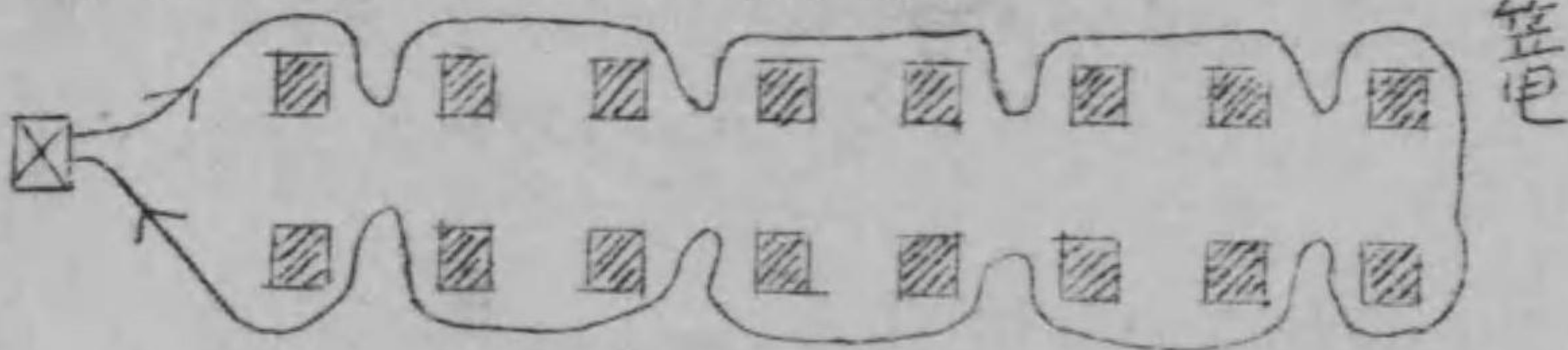
シリンダーケーシング⁷ 1/2



前列並掃除後フラット⁷層集メ



後列並掃除後フラット⁷層集メ



(57)

第七章 注油

(1) 注油 担任者

(1) 工頭ヲ用フルヲ宜シトス

(2) 注油方ヲ選クモ宜シ

(2) 注油個所回数滴数

(1) 回数 = 対スル種類

(イ) 12時間 = 2回

(ロ) 12時間 = 1回

(ハ) 24時間 = 1回

(ニ) 24時間 = 1回

(並掃除ノ際)

(ホ) 48時間 = 1回

(並掃除ノ際)

(ヘ) 1週間 = 1回

{58}

{3} 注油方法

注油方法ヲ次ノ六種トス

(1) 一-回注油 前記(イ)及(ロ)

(2) 一-回注油 ≪ (イ)

(3) コムボックス⁷注油 ≪ (ハ)

(4) 一-種並掃除注油 ≪ (=) (ホ)

(5) 一-種並掃除注油 ≪ (=)

(6) 一-週注油 ≪ (ヘ)

{4} 注油進行方向

(1) 右ニ向テ右ヨリ左ヘ

(2) 上ヨリ下ヘ

{5} 注油心得

(1) 油穴ニ対スル注意

(2) 注油器ニ対スル注意

(イ) 油出口先端一部ニ取換

{59}

へ得ル装置トシ

(ロ) 注油量ニヨリ一定ノ口径ノ
ノズルヲ備へ

(ハ) 一ヶ月一回全部工務部ニ引キ
寄テ検査取替ヲナス

(3) 注油順序ニ対スル注意

(イ) 我流ヲ出スベカラズ

(ロ) 規定通り実行スベシ

(4) 注油時間ニ対スル注意

(イ) 規定通り実行スベシ

(5) レベテスタル⁷ニ対スル注意

(イ) レベテスタル⁷、シリンダー⁷、ドラフター⁷

レベテスタル⁷ニハ、鋼力製ノレベテ⁷

入レテ用ヒ油ガレヤフト⁷ニヨク廻

ル様ニスル⁷

(60)

(ロ) 若し発熱した場合は交代ノ際引継ヲナスヲ怠ルベカラズ

(ハ) 「グリス」状態ニ注意スル事ヲ怠ルベカラズ

(61)

梳棉機注油箇所(右台)

符	注油箇所	濃	濃	濃	摘要
イ	テ-カ-インペデスタル	1	3	マシン	左 右
ロ	シリンダーペデスタル	2	3	〃	〃
ハ	ダイスボックススタット	1	3	〃	左 <small>オイル キューブ</small>
ニ	カムスタット	1	2	〃	〃
ホ	キヤンインブラケット	2	2	〃	左
ヘ	スワンネックスタンド	1	2	〃	右
ト	コンパウンドキヤリヤースタット	1	2	〃	右 <small>オイル キューブ</small>
チ	ダンデープレートスタット	1	2	〃	〃
リ	ラップローラー	1	1	〃	左 右
ヌ	フットローラー	2	1	〃	〃
ル	サイドシャフトブラケット <small>(フット- サイド)</small>	1	1	〃	左
ヲ	全上 <small>(フット- イント)</small>	1	1	〃	〃
ワ	エキセントリック	1	1	〃	〃
カ	カムシャフトウオーム	^x 1	1	〃	〃
ヨ	キヤンインシャフトウオーム	^x 1	1	〃	〃
タ	タッチブロックシャフト	1	1	〃	左 右
レ	ストリップングシャフト	1	1	〃	〃
ソ	ドップアーペデスタル	1	2	〃	〃
ツ	スパイラルイネジブラケット	^x 1	1	〃	〃
ネ	ス#ベルブラケット	1	1	〃	〃
ナ	コイラーピラーキヤンイン	2	1	〃	左
ラ	カレンダースタンド	4	1	〃	〃

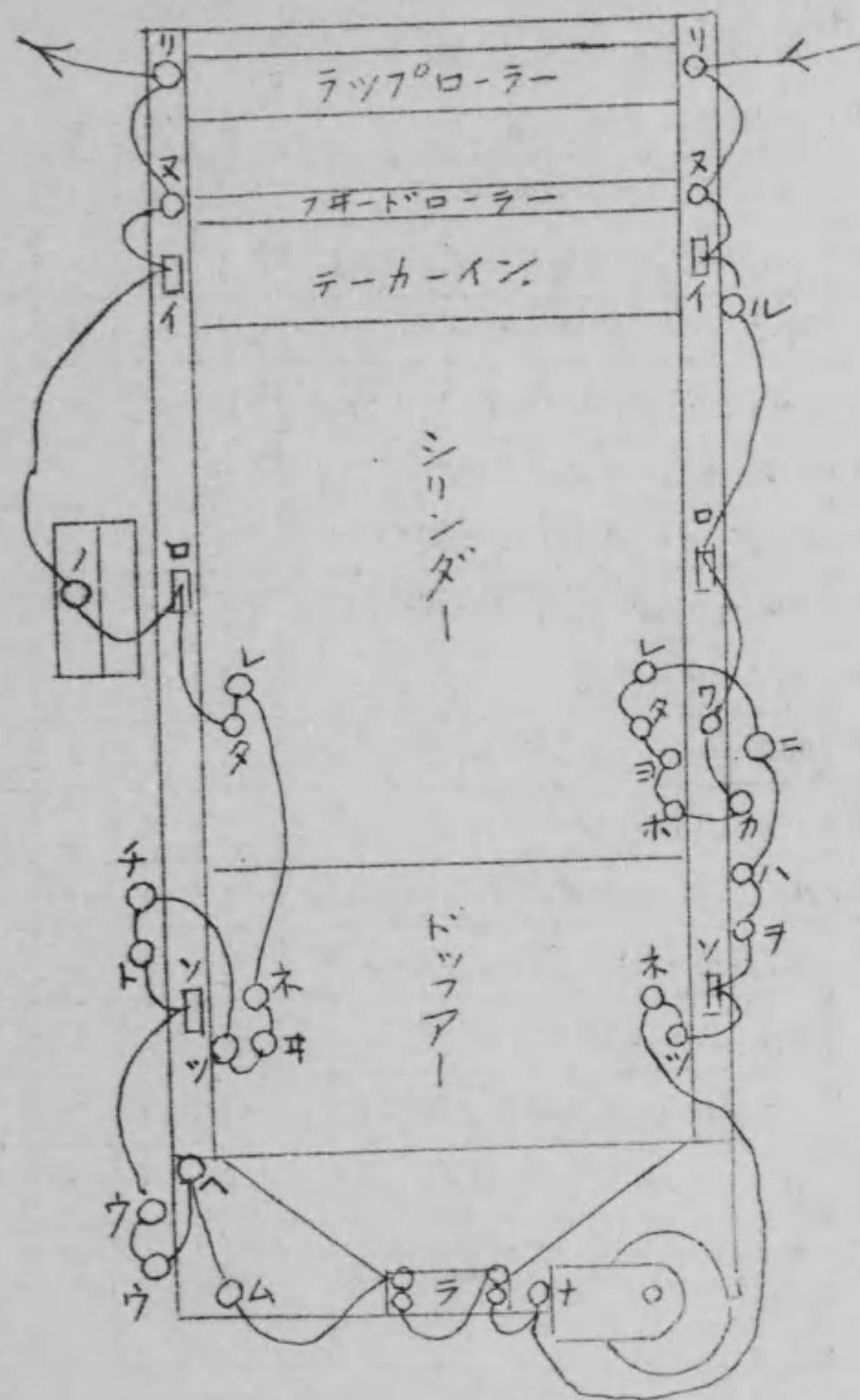
[62]

ム	カレンダーローラーエンドブラケット	1	1	シ	右
ウ	キヤリヤースタット	2	1	シ	右 ^{オイル} チューブ
キ	リンクブラケット	x1	1	シ	右
ノ	ルースプーレー	1	2	シ	シ
ホ	フライコムボックス	x1		シ	左
ク	コイラーカレンダー	4	1	シ	
ヤ	コイラーヒベル	x1	1	シ	
マ	アップライトシャフトブラケット	x1	1	シ	
ケ	チューブホ. #1	1	1	シ	
フ	アップライトシャフトサ.ポ.ブラケット	x1	1	シ	
コ	スタート上ダブルキヤリヤ	x1	1	シ	
エ	アップライトシャフト上キヤリヤ	x1	1	シ	
ヘ	ラヂヤスバー上キヤリヤ	x1	1	シ	
ア	カンギシユ	1	1	シ	
サ	№1ブロックシャフトプレ.ブロック	1	1	シ	左 右
キ	全上 ステツブ	1	1	シ	シ
ユ	№2ブロックシャフトプレ.ブロック	1	1	シ	シ
メ	サ.ポ.トブラケットプレ.ブロック	1	1	シ	シ
ミ	スモール #1 キエラー ブラシ	1	1	シ	シ
シ	ハンドルレバースタット	1	1	シ	左
ヱ	ダンテールレバースタット	1	1	シ	シ
ヒ	フ.ド.ローラーキヤリヤ	x2	1	シ	右

(注意) x印ハ油穴+キモノ

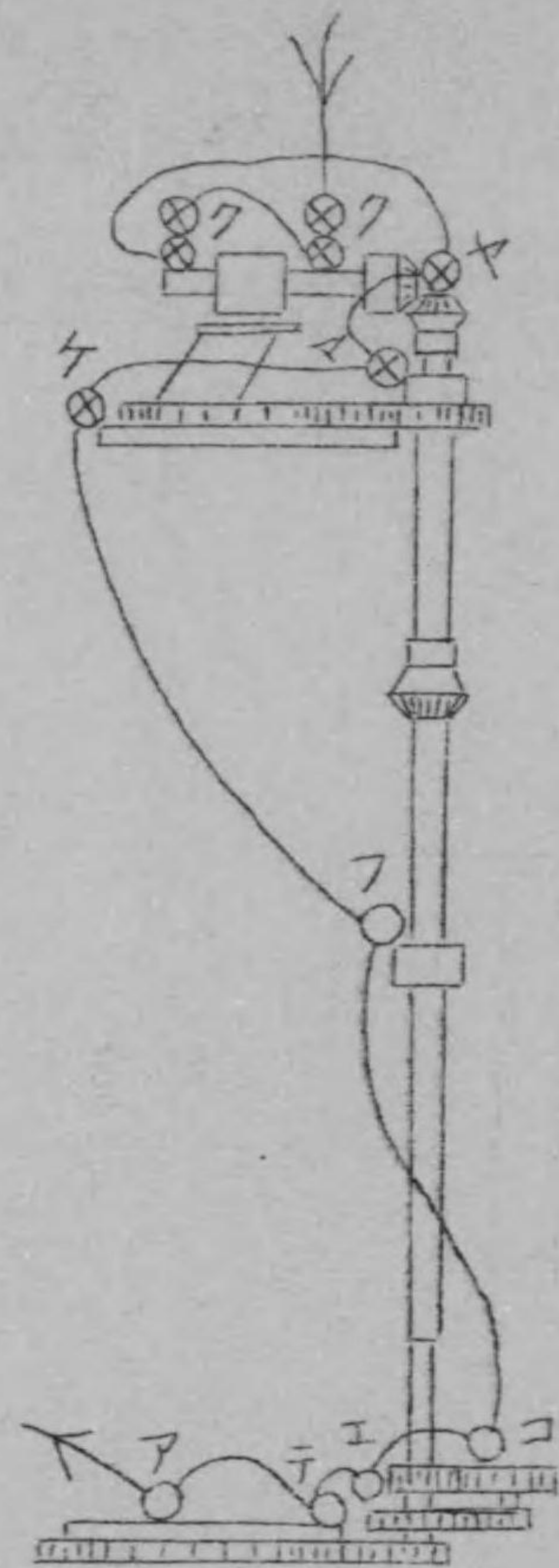
[63]

(FIG 11) (第一回注油順序)



[50]

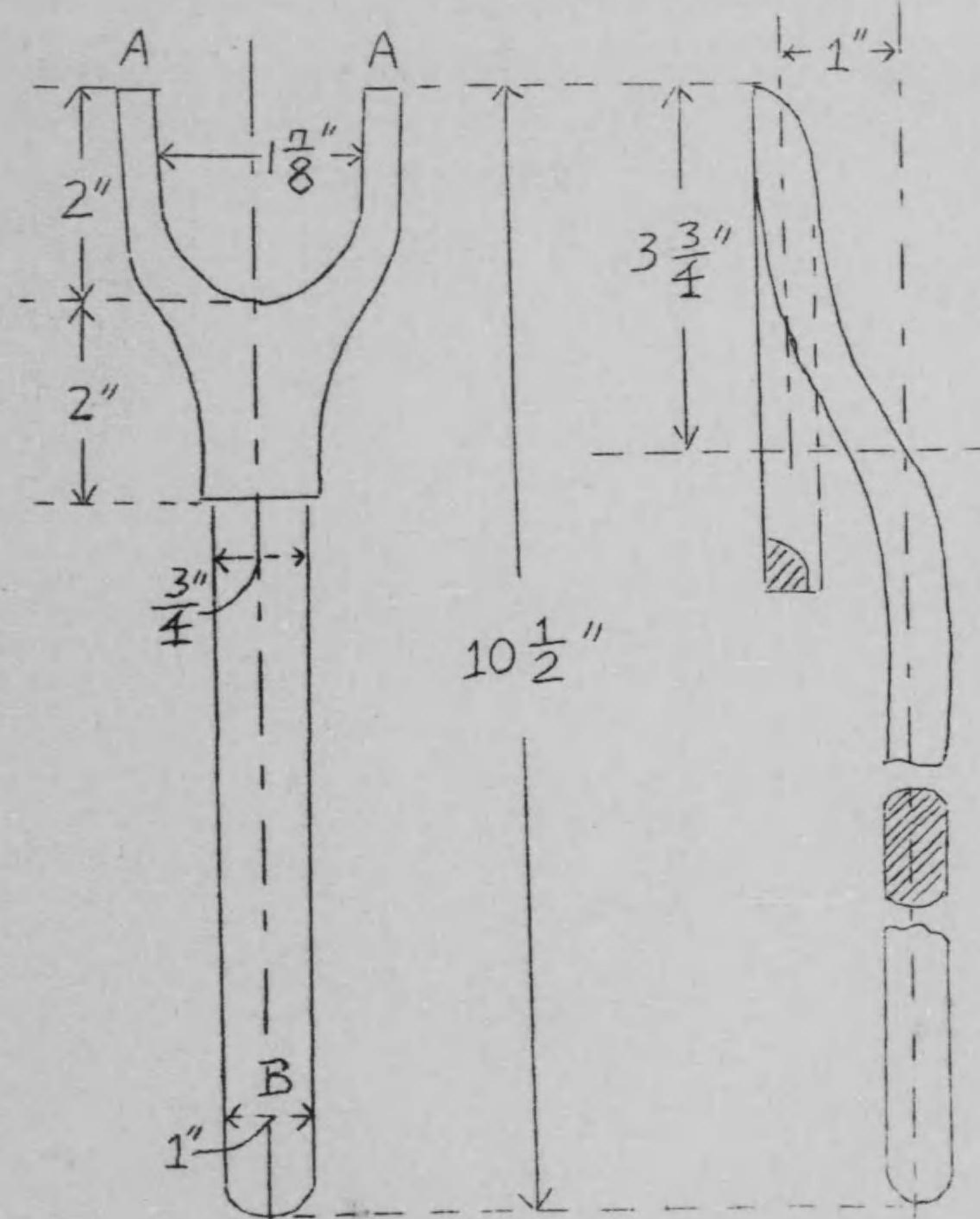
(FIG 14) [並掃除注油順序]



○ ⊗
 四 廿
 十 四
 八 時
 時 間
 間 一
 一 回
 回 注
 注 油

[67]

(FIG 15) [ライコムボックス注油の場合
 ボックスノ蓋ヲ開ケル道具]



「ボックス」蓋 = Aノ處ヲ当テ
 Bノ處ヲ手ニテ持チ下ゲテ
 コチ「用ケル

與附

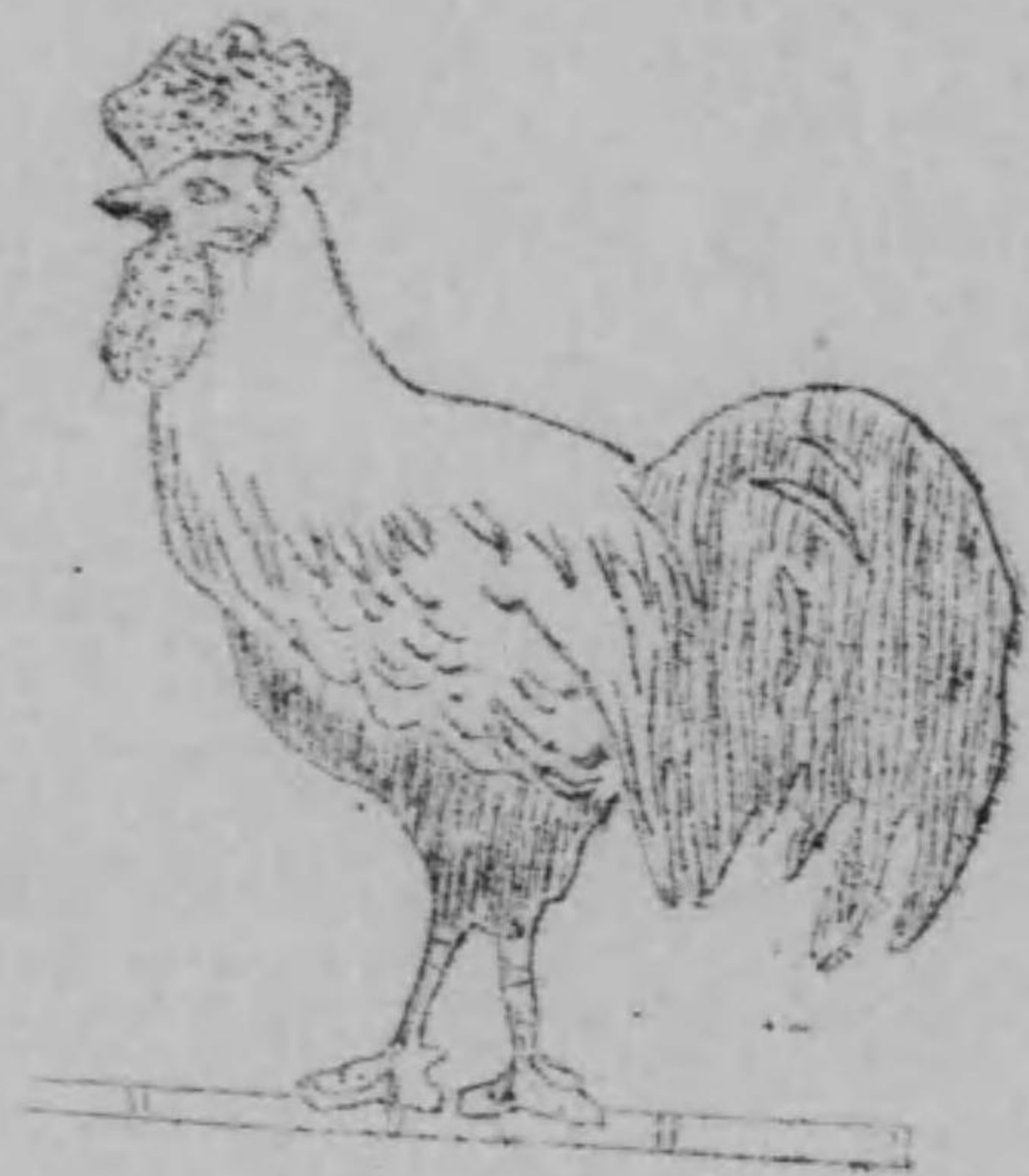
版權所有

大正十年三月一日 印刷
大正十年三月二日 發行

著作發行兼印刷人
佐野寅造

發行所
大日本紡織學會
大阪市南區難波元町一丁目三七
振替口座大阪五貳陸六六番

非賣品



11
425

終